

東洋學藝雜誌第二十九號

○社會ニ起レル人アルケヒシエールセレクシオン爲 淘汰汰ノ一大疑問

加藤弘之

獨乙國碩學ヘツケル黑科耳氏ノ造化史中人爲淘汰ノ部ニ左ノ論說アリ

太古希臘ノ士スバルダ巴爾答國ニ人爲淘汰ノ最モ顯著ナルモノアリタリ蓋シ此國ニテハ國內人民ノ初生兒ヲ綿密ニ淘汰スルノ嚴法アリテ凡ソ體質羸弱ナル歟若クハ体格不具ナル生兒ハ直ニ之ヲ殺シ特ニ體質強健若クハ体格完備セル生兒ノミヲ養育シテ其生長ニ最モ心ヲ用ヒシカハ此國ノ人民ハ次第ニ體質強健体格完備ノモノトミトナリ隨テ其人民ノ氣象ノ勇壯豪邁ナルヲ實ニ四鄰無比トハナレリ

又北米土人ノ諸部落カ強大ナル歐洲各國ノ侵入ヲ被ルニ際シ某數部落カ能ク之ヲ防拒スルヲ得タル所以ノモノハ元來此數部落ニ彼士スバルダ巴爾答ニ行ハレタル嚴法ト相同シキ淘汰法アリテ初生兒ノ體質羸弱ナルモノト体格不具ナルモノトハ直ニ之ヲ殺シ獨リ強健完備ナル生

兒ノミヲ生長セシメシヨリ其人民カ次第ニ強健勇壯ノモノトナリシニ由ル所ナリ蓋シ此ノ如キ人爲淘汰ヲ行フヲ數十百年ヲ經ルニ隨テハ其人民ノ次第ニ強健勇壯ノモノトナルハ決シテ疑フヘカラサルノ實事タルヲ知ルヘシ

然ルニ近今ニ至リテハ全ク之ト相表裏セル一種ノ人爲淘汰法アリ蓋シ近今開明各國ニテ醫學ノ大進歩ヨリ生スル所ノ淘汰法是レナリ今日醫學ノ大進歩ヲ以テスルモ實ニ內科的ノ病患ヲ全治スルノ至難ナルハ勿論ナレトモ唯彼慢性諸病ノ如キハ能ク其病勢ヲ緩ウシテ大ニ患者ノ生命ヲ延長スルノ術ヲ得ルニ至レリ是レ實ニ古代未開ナル醫學ノ決シテ爲シ能ハサリシ所ナリ而シテ勞療腺病黴毒等並ニ其他精神諸病ノ如キハ殊ニ子孫ニ遺傳スルモノ多キヲ以テ是等ノ病症ニ罹レル者カ醫學進歩ノ庇蔭ニ由テ其生命ヲ保ツテ愈長キニ至ルキハ其病質ヲ子孫ニ遺傳スルヲモ亦隨テ愈多キヲ加フルハ蓋シ免ルヘカラサルノ數ト云フヘシ而シテ更ニ數十百年ヲ經ルニ隨ヒ此ノ如キ病質ノ遺傳ヲ受クルモノ益増加シ

テ患者不具者次第ニ社會ニ蔓延スルニ至リテハ社會ノ不幸決シテ淺少ナラサルナリ蓋シ此不幸タルヤ全ク醫學ノ大進歩ヨリ生セル一種ノ淘汰法ノ結果ト云ハサルヘカラサルナリ

余ハ讀者諸君ニ問ハント欲スルモノアリ諸君ハ右黒科耳氏ノ論說ヲ讀テ如何ナル感覺ヲ起シ玉フヤ著者ノ論旨ヲ賛成シ玉フヤ否著者カ士巴爾答及ヒ北米土人部落ノ人爲淘汰ヲ以テ實ニ社會ヲ利セリトスルハ當レリヤ將當ラサルヤ(第一問)又著者カ近今歐洲醫學ノ大進歩ニ由テ患者ノ生命ヲ延長スルヨリ起レル人爲淘汰ヲ以テ實ニ社會ヲ害スト云フハ當レリヤ將當ラサルヤ(第二問)諸君若シニツナカラ之ヲ當レリトセラルノハ諸君ハ果シテ殺見ヲ美事トシ玉フヤ且ツ醫學ノ不進ニ由テ患者ノ夭死スルヲ希望シ玉フヤ若シ又ニツナカラ之ヲ當ラストセラルノハ其理由ハ何ト説キ玉フヤ
余ハ以上ノ疑問ヲ以テ決シテ速斷シ易キモノトハ認メサレト諸君ハ如何思考セラルヤ余ハ之ヲ諸君ニ質サント欲スルナリ但シ余モ亦聊卑見ナキニハ非サレト希クハ諸

君ノ高論ヲ聽カント欲スレハ故ラニ卑見演述ノ期ヲ延ヘ來ル五月本誌第三十二號ノ出版ヲ俟テ之ヲ論セント欲ス諸君亦意アラハ同時ヲ期シテ高論ヲ示サレシヲ乞フ然ラハ則同一時ニ同一雜誌ニ就テ同一疑問ノ答論數說ヲ讀ムヲ得ヘシ豈亦學者社會ノ一快事ナラスヤ

○漢字ノ廢止ニ假名ノ會ノ惣寄合ニ於テ爲シタル演說 外山正一

會長御婦人方、殿原、いづれにも御存の通り西洋諸國の人の宗旨ハ耶蘇教あり、而て今日勢力ある耶蘇教の宗派ト大別すれば則ち「ロウマンカソリツキ」教「プロテスタント」教「グリーキ」教の三宗派あり、此三教の中にて最も勢力の強きものハ「ロウマンカソリツキ」教ト「プロテスタント」教あり、又此二教の中にて「プロテスタント」教の最も開化しざる者、最も智識に富む者の信ざる宗旨にして「ロウマンカソリツキ」教ハ概して云へば智識に乏き者の信ざる宗旨あり、則ち「プロテスタント」教ハ英人の宗旨あり、獨乙人の宗旨あり、スコットランド人の宗旨あり佛人の中の智識に富む者の宗旨あり「ロウマンカソリツキ」教ハアイランド人の宗旨あり、イスパニヤ人の宗旨あり

因ると云れ「ロウマン、カソリツキ」教に世人の背りぞ

佛人中頑固ある者の宗旨あり、今日何學と論せざ大學者と稱せらるる所の人々の全く耶蘇教と信せざる人あるも然らざれば「プロテスタント」教と信する者の中に最も多くして「ロウマンカソリック」教と信する者の中に至て甚し、去年今日こそ「プロテスタント」教の如く盛大と極められども、今より四五百年以前に歐羅巴の全く「ロウマンカソリック」教の歐羅巴にてありたるあり「プロテスタント」教杯と云ふ宗旨と信する國として一國もあらざりしあり、實にや當時羅馬法王の權威の最ととさまじきものにて、如何なる帝王と雖も、一度法王の意に逆ふて爲に破門せらるる時の、臣民の中に及ばば妻子眷屬にまで見はかざる」と云ふ最とさるしき目にありせられしが故に、羅馬法王に諸國の帝王も皆二目も三目も置きさる如き情實にてありしあり、特に法王の權威のみ斯の如く熾かりしにあらざ、之に従ふ僧侶達の權勢の亦隨て熾かるとにてありしあり、而て羅馬法王と其配下の僧侶社會に斯の如く熾かざる權勢のありさるの全く當時の人が一般に「ロウマン、カソリック」教と奉じさるに

因るとされば「ロウマン、カソリック」教に世人の背りざらん」と欲して法王の苦慮させるも固より怪むに足らざ、就て世人の「ロウマン、カソリック」教に背りざらんと欲して法王の使用をさるる方便の多くある中に其一の則ち世人に經文と讀ませぬ様に爲さしめると之あり、それにより如何なる工風と用ひさるぞと云ふに、世人に讀めぬ様ある語と以て經文と綴らしめさるあり、則ち經文の「ラテン」語にて之と認めおきさり、されば經文と讀みてのからぬと云ふ譯にあらざりしも、六つしき「ラテン」語と學びたる者にあらざれば讀みたくても經文と讀むとの出來を、當時「ラテン」語と學ぶ者の今日より多かりしとの雖も、それでも各國共に其人民中「ラテン」語と解する者の極めて僅かりしが故に耶蘇教と奉ずる者の中にて經文を自ら讀みて僧侶の説く所の經文に載る所と合ふや、僧侶の云ふ所に何程虚言がありや否と自ら判斷するとの出來る如き者の最と甚かりしあり、斯る有様ありし僧侶の爲に如何にも都合よきとにてありしあり、宗旨の問屋の羅馬法王一人にて之と賣捌く僧侶の外

欲スルナリ但シ余モ亦聊見ナキニハ非サレトモ希クハ諸

のアイランド人の宗旨あり

にの經文と讀得る者の甚かりしが故に耶蘇の教にの全
く戻りたるると云開せられてもエメン、エメンと云ふて
難有がりて居らねばならぬ仕儀にぞありつる、御客の眼
と塞ぎ置きて品物と賣附けんとする商人がありがたれば、
それの實にふとき奴あり、羅馬法王の取も直さず斯の如
き商人あり、併し馬鹿を奴の難有お尙様だと其足までと
あめる者が澤山あり、世人の眼が開かぬ様にと法王と其
手下の族が心配したるも實に最の至あり、去年時の勢の
致方なきものあり、千五百年代の中頃に至りて經文の竟
に各國の語に翻譯せらるゝに至れり、且又此頃てうど印
刷の發明がありさるが故に國々の語に譯されさる經文の
忽地に耶蘇宗徒の中にひろがりより、こゝに於て世人の
耶蘇の教と自身に知るとの出来る様にありより、こゝに
於て耶蘇宗徒の僧侶が是まで何程うそと云ふて居りさる
かと名々に判斷せるとの出来ることありより、各方に
も御承知かの知らねども羅馬法王の至て深切ある人に
て、昔より張面と扣へて居りて、天下の書物の中にて讀
みての門徒の爲に悪き者と認むる者の一々其張面に載せ

て門徒に之と讀むると禁する定あり、併し餘り深切なき
て昔より學術とよめ世の開化と助くる如き書物の此張
面に書載せられぬの稀あり、斯の如き書物の門徒の讀む
との出来ぬ様にありて居るあり、蓋し此張面の初て、出
來さるの千五百五拾九年にポール第四世と云ふ法王が各
國の語に翻譯して出版せられさる經文と禁しさる時あり
と云へり、其時法王の其禁しさる經文と手をつくして取
あげ一々之と燒きてより、去年人情の何地も同じとあれ
ば開けての悪いと云われさる玉手箱の開けて見さく、の
ぞいて悪いと云われさる節穴のどかぞにの居られぬ如
き者が多き故に羅馬法王が經文と取あげ様としても其手
と喰のぬ者が中々澤山ありて、其人達が自身に經文と讀
みて見ると、これまで僧侶から聞居ると違ふともあれ
ば、僧侶より絶て聞きさるともあさとまで載て居ると
あれば誰も彼も相競ふて經文と讀む様にありて、法王の
大に信用と失ひより、是に於て羅馬法王のみと耶蘇教の
問屋と爲し置くことに不承知と云ひ出しさる者が多くあ
り、終に歐羅巴大半の「プロテスタント」とありて法王に

背きあり、此に由て之を觀るに各國の言語に經文の翻譯せられざるの法王並に其手下の僧侶の爲に、此上もかく不都合の處にてありしかり、されども「ラテン」語を讀むことと知らぬ耶蘇宗徒に取りての如何、自分達にも分る言語と以て綴られざる經文の出來ざるの不便あるとあるり、決して不便あるとにていあらざるあり、併し英人の爲に最も大事なる經文と英人に分らぬ言語にて綴りて置き佛人の爲に最も大切なる經文と佛人に分らぬ言語にて綴りて置くのが宜いと云ふん如き者の特り羅馬法王と其子の僧侶達のみならず、斯の如き者の今日、我邦にも澤山あり、日本の書物と假名にて綴らんと不便あり、不都合ありと云ふ人達の則ち斯の如き者あり、日本人に讀易い假名にて日本人の讀むべき書物と綴らんと不便だといふ人の英人の讀むべき書物と英人に讀易い英語と以て綴らんと云ふと不便だと云ふ人と其馬鹿加減の同じ者あり、併し今日我邦の書物と假名にて綴らんと不便だと云ふ人達の決して馬鹿者にいあらざるあり、其人達の中々譯の分つゝ人々あり、甚くとも彼の羅馬法王と其子分

の僧侶位の譯の分つゝ人々あり、羅馬法王と其手下の僧侶達の何故に諸國の人に分る言語に經文の翻譯せられんと拒みざるを全く自家の爲に不都合あると多き故にてありざるあり我邦の漢字と廢さんと云ふとに不同意ある人々の何故に不同意あるや、全く自家の爲に不都合のみの多きが故に外からざるあり、我邦人中に漢字と廢しての不便あり不都合ありと云ふ者多くあれども、其不便不都合との誰の不便不都合ぞと尋ぬるに其不便不都合との全く自分達の不便不都合のみあり、假名の會の諸君と雖も特に自分達の不便不都合のみ圖られんに、漢字と廢さんの不便あり不都合ありと云ふれん如き者も定めし多くあるとあらん、併諸君の云ふるゝ便利あり都合あり決して數年の星霜を費して漢字と學び得て之を自由自在に讀書するとの出來る者の便利都合の謂にあらざるあり、今日漢字と知らざる數百萬人の便利都合の謂あり、今より以後我邦に生れ出せる千億萬人の便利都合の謂あり、國の開化の爲の便利都合の謂あり、西洋諸國と競争せん爲の便利都合の謂あり、今日

漢學の教育のみある人々に取りての漢字と廢さんとの固より不便からん、それの此方にては百も承知あり、今日我邦にの漢字と讀習せると知る斗の故と以て好き地位と占めて居る者が澤山あり、新聞記者でも役人でも民權家でも其中で威張て居る人達の抑も如何なる教育と受けられざる人あるや、如何あると知らるる者あるや、教育として漢字の教育より外にの藥にしよくも外の教育の受けられざるのとなく、知て居らるるとい、かくの多き字とよみかきとるとに達者あるのみにて、冗長の文と綴り、あざら白紙と惜氣もかくほごにせると知て居らるるとより外に知て居らるるといあき人々が多し、毛唐人にも分らぬ程六かしき詩文と作るとい知れども、物理學や、化學や、地質學や、植物學や、動物學や、生理學に至りての中學生徒の云ふも更あり、小學生徒にもはるる及ばざる如き者が多し、何様斯の如き人々に取りての漢字と廢さんの一方からぬ不便のとにてあるからん、株が上るからん、顯がひるからん、上等社會の人に漢字と廢するの不便ありと云ふ人の多きの固より怪むに足らざるあり去として此人々として

決して故意に天下の爲も顧みず私利と營まんとせらるると如き悪人にもあらざるからん、羅馬法王並に其手下の僧侶とても故意に私利と圖りし者の決て多くのあらざるからん、凡そ誰にても自分の爲に悪き事の他人の爲にも悪き事からんと思ふの一般の人情あり、羅馬法王の我より外にの耶蘇教の眞意と解する者のあきと思へり、故に自分の手下の僧侶に就て教と受くるにあらざんば神の道と知らんとい出來ざると思へり、世人がみづりに經文と讀むの却て邪道におちいるの基かりと思へり、故に世人の廣く讀得べき言語に經文の譯されんとい甚だ憂ふべきと思へり、今日我邦の漢字と廢するの不便ありと云ふ者の如きも、之と廢するの己の爲に不便なると多きが故に他人の爲にも亦不便多きと思へる者あり、或る人の爲にの如何程不便と生るとも天下の爲に便利からんとい行のせんばあるべうらざるあり、今日の人の爲にの如何程不都合多きと雖も之と行ふ時の百萬年の後までも都合よきと認められたるとい勉て爲さざんばあるべうらざる、假名嫌の者の謂る不便の如き不便と生を

るとにして維新以來行のれたると夥多あり、驛遞局の設

廢止にかりたるの何より結構のとかり、士族の爲にの

るとにして維新以來行はれたると夥多あり、驛遞局の設立せられて郵便の法の整頓したるは天下萬民の爲に此上なき便利のとされども、私利と專に在る舊來の或る飛脚屋の實に不都合極まると思へるからん、是の政府の專賣あり、民の自由と害する仕方あり、天下の一大事あり、斯るとい自由國に有間敷きとありと思へる者も、定めしあるとあらん、併し驛遞局の立ねばならん、郵便の法の整頓せざんばならん、鐵道の出來て瀛車の走るの舊來の宿々の者の爲に此上なき不都合のとあり、宿々の者の活路と失ひ、宿の全く衰微せん、宿々の人の宿々が衰へれば天下も隨て衰へると思へるからん、世の實に末ありと思へるからん、併し鐵道の出來ねばならぬあり、瀛車の走らねばならぬあり、封建の廢せられ世録と取上られたるは士族の爲に此上なき不便あり、併し喰つふしのへりたるは天下の爲に甚だ都合よきとあり、大小と取上られて切きて御免杯云ふとのなくかりたるは士族の爲に至て不便りの知らぬども、にんじん牛房同様に切きてにされる株の人達に取りての斯るとのお

廢止にかりたるは何より結構のとあり、士族の爲に大小がさせて、切取強盜武士の習杯云ふ至義の行はれらんに、それこそ何より便利あるとにてあるからん、斯る主義の行はれたらんに物体かくも大職官鎌足の子孫だの清和天皇の後胤だのと云ふ人の人力車夫に落ぶれて、家柄にも耻せ一錢の蠟燭代とお客にねだる杯と云ふとの爲さざとも濟むとあらん、併し切取られる身分の者の爲に士族の如何に落ぶれ様とも切取られぬのが萬々都合よし

余と以て見るに漢字と廢しての不便ありと云ふ者多くあれども、其論を聞くに、不其謂る便との漢字と讀みうきするに既に達者なれども、假名と讀みかきするにまだ不熟練ある者の覺ゆる不便にして、其他の不便の甚だ甚し、假名の會の仲間には大槻文彦君の如く、自ら假名狂氣と稱せらるる假名の會の高山彦九郎氣取にて居らるる先生のあられて假名のみを用ひての不便ありと云ふ説の既に之と十分に打平げられれば、某の如く、それ程の狂氣にもあらぬ者が今更喋々するにも及ばざるとされ

ども、敵の大勢、身方の小勢のとされば俄に勝と得んと
 の中々六うしく、攻撃の出来る丈敵と攻撃せねばならぬ
 あり、故に御迷惑の百も承知されども、諸君も假名狂氣
 の仲間のとあり、何も假名の爲されば御迷惑でも反對論
 の大畧と某の駁論の大畧と一通り御聞下されんと願
 ふあり、

(以下次號)

志、ゆ、う、せ、き、けん、で、ん、き、に、つ、い、て

な、お、た、る、志、げ、ん、ご、と、れ、ま、さ、た、

れ、の、れ、こ、の、ご、ろ、と、れ、き、よ、れ、の、せ、い、れ、ん、

志、や、に、て、つ、く、ら、せ、た、る、志、ゆ、う、せ、き、けん、で、ん、き、

(Volta's condensing electroscope つめねれきみ)のり、よ、れ、

ほ、れ、の、い、た、に、れ、や、ゆ、び、と、ひ、と、さ、き、ゆ、び、れ、

と、れ、志、に、ふ、れ、志、か、る、の、ち、う、ね、の、い、た、れ、

ね、ん、き、り、ね、(ね、ん、れ、き、る、ね)、れ、も、つ、て、も、ち、あ、げ、

た、る、に、き、ん、ぱ、く、ひ、ら、さ、た、り、よ、つ、て、ゆ、び、

の、か、わ、り、に、り、よ、れ、ほ、れ、の、い、た、れ、は、り、が、

ね、に、て、つ、な、ぎ、て、こ、こ、ろ、み、た、る、に、や、は、り、ひ、ら、

さ、た、り、ま、た、い、た、の、あ、わ、せ、め、に、あ、る、こ、れ、

るらんぶのほのれれふれさせてもひらきたり

またみづあるいわきりゆうさんなどれ志

め志たるこよりにてりよれほれのいたれ

つなぎてもひらきたりまたうねのいたと

志たのいたねぬら志たるこよりれかわる

がわるにふれさせてもれな志できばねれ

たりこれまできんぱくにれこりたるねれ

きわいつもよれなりきつぎに志たの

いた(つめいた)れね志も志志てとりはぶ志志か

るのちうねのいた(あつめいた)のねれふ

らすこのくちにさ志てたいらにな志うの

うねに志ねのいたれのせあつめいたと

きんぱくとれはりがねにてつなきたり

かくのごとくつめいたとあつめいたれと

りかね志ねのごとく志けん志たるにこのたび

わきんぱくのねれきいんとなりたり

これわつめいたとあつめいたとれつ

くりたる志んちゆうの志よれやいがちがう

ゆねにほれてん志やるのされ志よれ志

賊其君者也、凡有四端於我者、知皆擴而克之矣、若火之始

ゆゑに、ぼれてんをやるのされ、えよ、れ、え
かよ、ねなる、げん、ず、れ、ね、あらわ、えたる、なり。
けんでん、さ、れ、つくる、とき、に、わ、さ、れ、つ、け、
べき、こと、なり。この、え、けん、の、え、か、た、に、
て、ふ、た、つ、の、ち、が、う、か、ね、れ、わ、さ、たい、また、わ
ほ、の、れ、れ、あい、だ、に、い、れて、つ、な、ぐ、とき、も
ぼ、れて、ん、を、やる、の、さ、れ、え、よ、れ、する、こと、れ
た、やすく、え、め、す、こと、れ、うる、なり。

○排孟論(續稿)

井上圓了

孟子曰、人皆有不忍人之心、先王有不忍人之心、斯有不忍
人之政矣、以不忍人之心行不忍人之政、治天下可運之掌
上、所以謂人皆有不忍人之心者、今人乍見孺子將入於井、
皆有怵惕惻隱之心、非所以內交於孺子之父母也、非所以要
譽於鄉黨朋友也、非惡其聲而然也、由是觀之、無惻隱之心
非人也、無羞惡之心非人也、無辭讓之心非人也、無是非之
心非人也、惻隱之心仁之端也、羞惡之心義之端也、辭讓之
心禮之端也、是非之心智之端也、人之有是四端也、猶其有
四體也、有是四端也而自謂不能者自賊者也、謂其君不能者

賊其君者也、凡有四端於我者、知皆擴而充之矣、若火之始
燃、泉之始達、苟能充足以保四海、苟不充之、不足以事父母
ト、是レ孟子ノ性善ナリト斷決スル論據ナリ、之ヲ要スル
ニ、孟子ハ人ニ良心ノ存スルヲ見テ善性ヲ有スルモノト
論定スルナリ、不忍人之心即チ惻隱之心トハ果シテ如何ナ
ルモノナルヤ、又何レヨリ來リシヤ孺子ノ井ニ入ラント
スルヲ見テ、人皆此心ヲ生スルハ、孟子ノ説ク所ノ如シト
雖モ、是レ果シテ孺子ヲ愛スルノ善心ナルヤ、又自身ヲ愛
スルノ私情ナルヤ、ホツテ氏云ヘルアリ、他愛ハ自愛ヨリ
生ズト、又曰ク、人ノ危難ヲ見テ惻隱ノ心ヲ生スルハ、自
己ノ身上ニ危難ヲ受クルカ如ク想像スルヨリ發スト、然
ラハ自愛ノ外ニ他愛ナク、私利ヲ去リテ公利ナキナリ、蓋
シ人ノ心思ト外貌トハ密切ナル關係ヲ有スルヲ以テ喜怒
苦樂ノ情必ス外貌ニ發シ、且ツ各々其表現ヲ異ニス、喜フ
キハ笑ヒ、憂フルキハ泣ク、人身ノ構造固ニ然リ、而シテ
人タルモノ幼ヨリ物ニ觸レ、事ニ感シ、數回ノ經驗ヲ一身
ニ聚積スルヲ以テ、他人ノ外貌ヲ一見シテ、直チニ其苦樂
ヲ推想スヘシ、於是人ノ外且苦痛ヲ示スキハ、忽チ之ヲ自

己ノ心頭ニ感シ、自ラ其苦痛ニ耐フル能ハスシテ、人ヲ救助スルニ至ル、孺子ノ井ニ陥ラントスルヲ見テ、惻隱ノ心ヲ生スルモ、亦此理ニ由ル、眞ニ孺子ヲ愛スルノ情アリテ、然ルニアラス、自身ヲ愛スルノ餘此ニ至ルノミ、然ラハ惻隱不忍人ノ心ハ、他愛ノ端ニアラスシテ、自愛ノ餘ナリ、孟子尙ホ之ヲ善トナスカ、次ニ羞惡之心トハ何ソヤ、羞ハ己レノ不善ヲ耻チ、惡ハ人ノ不善ヲ憎ムモノニアラスヤ、所謂良心ナリ、自ラ不善ヲナシテ悔悟ノ情ヲ發スルハ、フイスク氏ノ論スル所ヲ以テ知ルヘシ、氏曰ク、人ニ社會一般ノ公利ヲ計ラントスルノ情ハ、終始常ニ心中ニ存スト雖モ、一時ニ激衝急迫スルヲナシ、而シテ私欲ヲ達セントスルノ情ハ、其力至テ強シト雖モ、其時甚タ短ク、腦裏ニ記念スル、亦薄シ、故ニ人一時ノ衝力ニヨリテ一旦私情ヲ逞フスルヲアルモ、其智力思フテ平常記念スルノ点ニ達スレハ、忽チ良心ヲ發シテ悔悟ノ情ヲ生スルニ至ルト、ダーウ[#]ン氏ノ人類成來論中ニ論スル所亦之ニ同シ、岡氏ノ言ニツイテ案スルニ、物ノ理タル縦ニ深ク、横ニ短シ、横ニ長ク、縦ニ淺シ、今私情ノ如キハ

其力横ニ強キヲ以テ其時短ク、公益ヲ思フノ情ハ其時縦ニ長キヲ以テ、其一時ノ力私情ノ如ク強カラス、故ニ一旦私情ノ衝起スルニ當リテハ、或ハ之ヲ制抑スル能ハサルモ公利ヲ思フノ情、常ニ記憶中ニ存シテ絶ユルヲナキヲ以テ、忽チ此情ヲ想起シテ悔悟ノ良心ヲ發スルニ至ル、而シテ其情ノ常ニ胸中ニ存スル所以ハ、社會進化ノ理ヲ以テ證スヘシ、於是乎自己ノ不善ヲ耻ツルノ心生スルナリ、自ラ不善ノ耻ツヘキヲ悔悟スレハ、之ヲ人ニ及シテ其不善ヲ憎ムニ至ルモ、亦自然ノ勢ナリ、次ニ辭讓ノ心トハ何ソヤ、己レヲ退ケテ人ヲ推スノ心ナリ、是レ教育經驗ニヨリテ得ル所ノ一結果ナリト雖モ、其因源ヲ尋ヌルニ、自己ノ生ヲ保チ樂ヲ全フセントスルノ性ヨリ發スルモノトス、他語以テ之ヲ言ヘハ、人ヲ崇敬スルノ情ニ出ツルニアラスシテ、自己ヲ愛重スルノ心ニ生スルナリ、人ノ始メテ野蠻未開ノ世界ニアリテ、腕力社會ニ交接スルヤ、弱者其生存ヲ保全セント欲セハ、強者ノ前ニ遜讓屈伏セサルヲエサルノ事情アリ、何者弱者若シ強ニ抗スレハ、直チニ強者ノ擄隘スル所トナリ、生命ヲ失ハノミ、且ツ人一旦忝

敬辭讓ヲ盡シテ、其自身ニ益アルヲ知レハ、再三之ヲ重テ

モノハ之ヲ稱シテ善トシ、其極遂ニ善惡ヲ識別スルノ天

レハ、横ニ短シ横ニ長ケレハ、縦ニ淺シ、今私情ノ如キハ

者ノ搏噬スル所トナリ、生命ヲ失ハノミ、且ッ人一旦忒

敬辭讓ヲ盡シテ、其自身ニ益アルヲ知レハ、再三之ヲ重テ
ントスルノ性アリ、再三之ヲ重テ益、其利アルヲ驗スレ
ハ、其勢遂ニ之ヲ及シテ、世上一般同輩ノ間ニ用井ルニ至
ル、斯クシテ漸ク進ミ愈々重テ習慣風ヲ成シ、遺傳性ヲ
成シ、一種ノ良心ヲ鑄造スルナリ、次ニ是非之心トハ、善
ヲ見テ是トナシ、惡ヲ知リテ非トナスノ性力ニシテ、又良
心^{エンス}ノ一ナリ、之ヲ證明スルニ、當リ、先ツ爰ニ世間一般人
ノ善ト稱シ惡ト名クルモノ、何タル所以ヲ論究スルヲ必
要トス、ヒューム氏及ヒ其他功利學家ノ說ニヨルニ、是非
善惡ヲ識別スルノ良心ハ、各人經驗スル所ノ苦樂ノ感覺
ヨリ派生スト云フ、即チ善惡ノ濫觴ハ苦樂ニアリトノ義
ナリ、ベーン氏モ、又天賦良心ヲ排シテ曰ク、我人今日ニ
アリテハ直チニ善惡ヲ識別スルノ力ヲ有スト雖モ、此理
ヲ以テ良心ハ天賦ナリト斷言スルヲエス、何者習慣因襲
ノ久キ一種ノ性ヲ鑄成スルヲアレハナリト、然ラハ人々
ルモノ日々經驗實行スルノ際、屢々苦ヲ感シ樂ヲ覺ヘ、之
ヲ重ヌル數千百回ノ後必ス氣性習成ノ理ト觀念聯合ノ力
ニヨリテ苦ヲ生スルモノハ、之ヲ憎ミテ惡トシ、樂ヲ來ス

モノハ之ヲ稱シテ善トシ、其極遂ニ善惡ヲ識別スルノ天
性ヲ化生スルニ至ルヘシ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、孟子ノ他
愛心ト信スル惻隱ノ心ハ、却テ自愛自利ノ心ヨリ起リ、天
賦ノ良心ト證スル羞惡辭讓是非ノ心ハ、苦ヲ感シ樂ヲ覺
フル經驗ヨリ生ス、而シテ自愛自利モ苦ヲ避ケ樂ニ就ク
ノ情ニ外ナラサルヲ以テ、仁義禮智ノ四端皆唯、苦樂兩感
覺ノ發達分化スルモノト知ルヘシ、然ラハ爰ニ再ヒ苦樂
ノ何モノタルヲ討究シテ、一層良心ノ起ル所以ヲ明瞭ニ
セントス、
ハミルトン氏曰ク、樂ハ我識内ニ作用スル力ノ自然ニ發
動スル反應ニシテ、苦ハ其作用力ノ遏抑スルアリテ、自在
ナラサル反應ナリト、モーツレー氏曰ク、各人ノ衝力ヲ屬
マスノ情思ハ樂ノ感覺ニ從フモノニシテ、各人ノ拒力ヲ
生スルノ情思ハ、苦ノ感覺ニ從フモノナリト、スペンソル
氏曰ク、樂ハ我意識内ニ保存セントスルノ感覺ニシテ、苦
ハ我意識外ニ放棄セントスルノ感覺ナリト、種々ノ定義
ヲ下スモノアリト雖モ、要スルニ苦ハ我性力ノ離レ遠カ
ラントスルノ一感覺ニシテ、樂ハ其力ノ向ヒ近カントス

ル反對ノ感覺ナリ、是レ人間獨リ有スルニアラス、苟モ宇宙間ニ一生ヲ保存スルノ諸動物一トシテ此性ヲ有セサルハナシ、其理余先ニ既ニ之ヲ論セリ、然レモ其性タル最初ハ皆自然ノ勢ニ從ヒテ發生スルモノニテ、意識ヲ用井テ爲スニアラス、其長達スルモ亦自ラ之ヲ知覺セサルナリ且ツ其始メテ起ルヤ、固ヨリ著シキ變化ヲ有スルニアラス最小極微殆ント知ルベカラサル起元ヨリ發ス、凡ソ物一タヒ動ケハ、永ク其方向ニ進マントスルノ性アルヲ以テ、苦ヲ去リ樂ニ就カントスルノ原性、一旦其起元ヨリ發スル以上ハ、其勢ニ從ヒテ進マントスルノ傾向アリ、其他外ヨリ其性ヲ養成スルノ事情アルヲ以テ漸ク增長進達スルノ勢アリ、其事情トハ何ソヤ、曰ク、自然淘汰ノ影響ナリ、生存競争ノ結果ナリ、今夫レ社會ト云ヒ、人類ト云ヒ、動物ト云フモ皆此影響結果ニアラサルハナシ、人類ノ動物ヨリ起リ社會ノ一箇人ヨリ成ルノ理皆之ニ由テ證明スルヲ得ヘシ、人果シテ動物ヨリ分化スルモノナラハ、其性ノ本源亦動物中ニナクンハアルヘカラス、今動物ハ固ヨリ惻隱羞惡ノ良心ヲ有セサルモ、苦ヲ去リ樂ニ就カントスルノ時ニ於テハ、唯自愛自利ノ情アリテ、仁恕汎愛ノ

トスルノ原性ヲ有ス、是レ良心ノ本源ナリ、下等動物ニ下レハ、其性漸ク微小ニシテ識見スベカラサルニ達スルモ、全ク其痕跡ナキニアラス、此ノ如キ最小極微ノ原性進化ノ際競争淘汰ニ遇フテ、漸々伸暢發達スルニ至ルヤ必然ナリ、假令ヘハ爰ニ數種ノ下等動物アリ、其生存ヲ保全セントスルニ當リテハ、氣候食物上ニ競争ヲ生セサルヘカラス、又同屬異種間ニ競争ヲ發セサルヘカラス、是レ皆無意自然ニ屬スルト難モ、各箇生存上免ルヘカラサル事情ナリ、競争一タヒ起レハ、此性ヲ有スルヲ多キモノ生存繁殖スル易ク少キモノ難キハ自然ノ勢ナリ、於レ是其性漸ク増進スルノ傾向アリ、之ヲ外情ヨリ得ル所ノ變化ト云フ、其變化子々孫々互ニ相遺傳スルアリ、父ノ性ハ子ニ傳ハリ、子ノ性ハ孫ニ傳ハル、之ヲ心性遺傳ト云フ、變化遺傳ノ二カニヨリテ一タヒ動物界ニ生スル所ノ原性益々發達分化シテ遂ニ良心ノ如キ人類特有ノ天性ヲ結得スルニ至ル、之ヲ總シテ進化淘汰ノ作用影響ト云フ、此理ヲ以テ自己一人ヲ愛スル心ノ進ミテ社會衆人ヲ愛スル情ヲ生スル所以亦證明スヘシ、社會未タ成ラス、群類各々其生ヲ異ニ

スルノ時ニ於テハ、唯自愛自利ノ情アリテ、仁恕汎愛ノ

ヲ以テ善惡ノ別隨ヒテ生ス、其幸福ヲ生スルモノ之ヲ善

ヨリ憫隱羞惡ノ良心ヲ有セサルモ、苦ヲ去リ樂ニ就カン

所以亦證明スヘシ、社會未タ成ラス、群類各其生ヲ異ニ

スルノ時ニ於テハ、唯、自愛自利ノ情アリテ、仁恕汎愛ノ
 心ナキハ禽獸ノ爲ス所ヲ見テ明カナリ、然レニ競争淘汰
 ノ一タヒ起ルニ當テハ孤立獨行自他相抗排スルハ、最モ
 生存長育ニ不便利ナルノ事情ニシテ、自然ノ勢社會團
 結シ、強弱協合せサルヲエサルニ至ル、於レ是君臣上下ノ
 別、協力分勞ノ制起ル、其別愈明カニ、其制愈密ナレハ、
 益々全社會ノ繁榮幸福ヲ増進スヘシ、全社會ノ繁榮幸福
 愈々増進スレハ、一人一個ノ快樂安寧モ亦長達スヘシ、之
 ヲ歸スルニ一人ノ樂ヲ長セント欲シテ、衆人ノ樂ヲ長シ、
 一身ノ生育ヲ全フセント欲シテ、社會ノ繁榮ヲ求ムルニ
 至ル、然ラハ衆ト臣ニ樂ムノ情モ人ヲ愛シ物ヲ憐ムノ心
 モ、皆自生自利ヲ達セントスルノ性ヨリ起ル、仁義ノ良心
 豈是レニ外ナランヤ、然シテ世ニ善惡ト稱スルモノ、亦他
 ニアラス、其能ク公私自他ノ幸福ヲ進歩スルモノヲ善ト
 シ之ヲ妨害スルモノヲ惡トスルノミ、苦樂禍福ノ外世ニ
 復タ善惡ノ標準トナスヘキモノナシ、故ニブレイ氏モ善
 惡ヲ論シテ人ノ行爲皆然ルヘキ理アリテ發スルヲ以テ善
 惡ノ異同アルヘキナシト雖モ、人ニハ苦樂禍福ノ別アル

ヲ以テ善惡ノ別隨ヒテ生ス、其幸福ヲ生スルモノ之ヲ善
 トシ、禍患ヲ來スモノ之ヲ惡トスト言ヘリ、是レニ由リテ
 之ヲ觀レハ、善惡ト云ヒ是非ト云フモ、又皆我カ苦樂ノ二
 情ヨリ進化派生スルモノト謂フヘシ、以上ハ唯進化ノ外
 情ヨリ助クル所ノ影響ヲ論スルノミ、故ニ是ヨリ内力ノ
 作用結果如何ヲ考ヘサルヘカラス、動物界ハ其爲スヲ皆
 無意無識ニ出ツト雖モ、人界ニ入りテハ有意有識ノ動作
 多キヲ以テ隨ヒテ變化進達ノ速カニシテ、且ツ著キヲ見
 ル、今其經驗上非常ノ影響ヲ有スルモノヲ擧ケレハ、習性
 連想賞罰教育等ナリ、先ツ習性トハ一タヒ爲ス所ノモノ
 再三反復セントスルノ性ヲ云フ、連想即チ觀念聯合トハ
 人ノ諸動作、感覺ノ屢々連續シテ起ルキハ、其間互ニ相附
 着聯合スルアリテ、一者心ニ觸ルレハ、觀念上オノツカラ
 他者ヲ想起スルノ力ヲ云フ、細ニ之ヲ言ヘハ、連想ハ習性
 ニヨリテ生スルナリ、故ニモルフエー氏ハ習性智力論中
 ニ其義解ヲ下シテ曰ク、習性ナルモノ之ヲ大ニシテハ、諸
 生物ノ動作性質ヲ反復因襲シテ子孫ニマタ遺傳スヘキ一
 種ノ性法ニ與フルノ名ニシテ、有識無識兩作用ノ基礎ト

外勢ニ感應シテ、漸ク發達シ、人爲ノ方法ヲ待チテ愈々増

共ニ進化シタル實證ナリ、

以上條々論スル所之ヲ總括スルニ、孟子ハ道ノ本天ニアリテ、人其氣ヲ稟ケテ生ル、故ニ性ハ善ナリトス、而シテ之ヲ證スルニ、人ニ惻隱、羞惡、辭讓、是非ノ良心アルヲ以テス、余ヲ以テ之ヲ觀レハ、天ハ茫然測ルベカラズ、縱ヒ其善性ヲ人ニ賦與スルアルモ、誰レカ能ク之ヲ知ラン、然シテ良心ノ今日人ニ存スルハ、事實上其原因ノ究明スヘキアリ、何ヲ復タ天ニ歸スルヲ要セシヤ、之ヲ究明スルハ、獨リ進化ノ理ニアリ、此理ニ本ツキテ考フルニ、人ハ動物ヨリ進化シタルヲ以テ我良心ノ起元ハ動物中ニナクンハアルヘカラス、其原種ハ即チ人獸共有ノ苦樂ノ兩感覺ナリ、蓋シ苦ヲ避ケ樂ニ走ルノ傾向ハ、生存必要ノ事情ニシテ、諸有機物ノ苟モ宇宙間ニ長育スルモノ多少此性ヲ有セザルヲエス、物一タヒ其萌芽ヲ有スレハ、内力外勢ノ互ニ相感應影響スルアリテ、漸ク發達進長スルノ勢アリ外勢ハ則チ氣候食物等ノ競争ニシテ、内力ハ則チ習慣遺傳等ノ理法ヲ云フ、斯クシテ人界ノ動物界ヲ脫去スルニ從ヒ、苦樂ノ情ハ次第ニ進遷分化シ、社會ノ團結スルニ及ヒテ、別シテ其發達ノ著シキヲ見ル、人界ハ他種同屬間ノ競

爭殊ニ多ク、觀念思想ノ聯合大ニ長シ、加フルニ、教育政法等ノ設ケアルヲ以テ苦樂ノ感情ノ益々進化シテ、遂ニ善惡ノ良心ヲ轉成スルニ至ル然ラハ仁義ノ四端ハ天ノ賦與スルニモアラズ偶然ニ發生スルニモアラズ全ク社會進化ノ一結果ナリ其他孟子ノ仁義ノ說堯舜ノ論等ニツイテハ種々排毀スベキ点アソヒ、性善論ハ孟子一代ノ卓見ニシテ全書七篇中ノ主眼ナレハ、茲ニ先ツ其妄誕ナルヲ論破シテ、排孟論ノ第一篇トナスト云フ、

○フアイ、氏彗星論講譯(續稿)

寺尾壽

宙間真空中ノ蒸發 人將ニ曰ハントス此ノ雲ノ如ク霧ノ如ク把ルベカラズ掬スベカラザルモノハ果シテ何物ゾ果シテ如何シテ生シテ如何シテ化スルヤ殊ニ太陽ハ何ヲ以テ之ヲ引カズシテ反ツテ之ヲ斥クルヤ宇宙間果シテ唯一ノ引カアルノミニハアラズヤ天體重學ハ自今更ニ一種ノ力ヲ採録シテ其作用ヲ計算セザルベカラザル乎ト吾輩將ニ從來ノ如ク一ニ事實ニ基キテ以テ此等ノ疑問ニ對ヘントス

第一此雲狀物質ノ稀薄ナルヲ實ニ思想ノ及ブ所ニアラズ
 其證ニハ彗星ノ尾ノ厚キヲ二萬里三萬里乃至五萬里ナル
 ニモ拘ハラズ其星辰ノ前ヲ經過スルニ當リ最微ノ恒星ト
 イヘドモ殆ント全ク爲メニ其光明ヲ減殺サル、トナシ偕
 霧ノ最モ稀薄ナルモノトイヘドモ其厚サ僅ニ數百メートル
 ルニ至レハ恒星ノ最モ赫灼タルモノ、ミナラズ時トシテ
 ハ太陽ヲモ全ク遮蔽シテ日ニ見エザラシム故ニ我ガ畧圖
 氣中ニ翱翔スル所ノ水分ノ霧ヲ成セルモノ稀ハ則稀ナリ
 トイヘトモ之ヲ彗星ノ尾ニ比スレハ猶非常ニ緻密ナルモ
 ノナルヲ明カナリ

蓋、物ノ性タル之ヲ一種特別ノ場合ニ置ケバ剖拆分碎殆
 ンド程限アルヲナク而シテ其我ガ感覺ニ觸ル、トモ自若
 タリ世ニ所有物理教科書ノ卷首ニ其例ヲ載セザルモノナ
 シ例トヘバ唐紅一ミリグラシムヲ一億倍ノ酒精ノ中ニ溶
 解スレハ猶、之ヲ染メテ目ニ見ニル程ノ色ヲ有セシム又
 一ゲレインノ麝香ヲ尋常ノ空中ニ置ケハ須臾ニシテ其香
 室内ニ充滿ス又一滴ノ水モ大氣中ニ蒸發スルニ及ンテハ
 空氣ト交和シテ非常ノ立積ヲ有スルニ至ル

宙間真空ノ中ノ蒸發ハ其容易ニシテ且迅速ナルヲ我畧圖
 氣ノ中ニ於テスルモノノ比ニアラス假ニ雪片一枚ヲ把テ
 之ヲ惑星天ノ中ニ放テ之ヲシテ單ニ太陽ノ熱線ノミヲ受
 ケシメンニ雪片熱ヲ受ケテ忽チ蒸發シ非常ノ速度ヲ以テ
 水蒸氣ヲ真空ノ中ニ迸射スベシ然リ而シテ稠密ニシテ熱
 ヲ護スルヲ我ガ大氣ノ如キモノアラザルヲ以テ此水蒸氣
 ハ忽チニ凝結シテ無數ノ氷片トナリ多少緻密ニシテ非常
 ノ立積ヲ占ムル霧ヲ成スベシ而シテ此霧ノ各分子ハ尙、
 當初ノ雪片ノ如ク太陽ノ熱ヲ受ケテ迅速ニ水蒸氣ヲ射出
 シ更ニ第二等ノ霧ヲ作ルヘシ故ニ雲時ノ後復タ當初ノ雪
 片ヲ見ズシテ其代リニ空間ニ一ノ雲狀物質ヲ出現シ其各
 分子ヲ浸ス所ノ蒸氣ハ動モスレバ輒チ飛騰セントスルナ
 ルベシカクシテ出來タル所ノ物體ハ殆ンド全ク太陽ノ熱
 ヲ受ケ留ル力モナク亦殆ント全ク互ニ相抑壓スルヲモ光
 ヲ屈折スルヲモナカルベシ去リナガラ若シ十分ノ厚サア
 ラバ多少反射スル所ノ光我輩ノ眼ニ達シ天外窈冥之中ニ
 此ノ模糊タル雲狀ノモノヲ見ルヲ得ベシ我ガ大氣ノ最
 高部分ニ於テ時々見ル所ノ凍雲シルスノ由テ生ズル所ノモノ蓋

斯ノ如キニ過ギザルベシ

彗星ノ核ノ軌道ト同一ノ幾何學上ノ性質ヲ有テル軌道ヲ

斯ノ如キニ過ギザルベシ

彗星ノ體ノ中ニ於テハ勿論此ノ如キノ現象アルベカラズ
蓋其界圍氣其核ノ引力ノ爲ニ抑留セラレテ多少ノ壓力ヲ
有スベケレバ物質ノ蒸發必ズ多少緩慢ニシテ且其規模多
少狹隘ナラザルベカラズ故ニ彼ノ雲狀ノモノハ彗星ノ體
ノ外ニ於テ生ズル所ノモノナリ吾輩本論ノ始メニイヒシ
ゴトク太陽ノ近傍ニ於テハ此ノ天體ノ分解力ノ爲メニ彗
星ノ物質ノ或ル境界ヲ超ユルモノハ悉ク飛散シテ復タ彗
星ニ密着セズ而シテ此境界ハ彗星太陽ヲ距ルコト愈々近ケレ
バ愈々狹隘ナリ故ニ彗星ノ固体ノ部分ハ従前ノマヽニシ
テサシテ變化モナケレドモ其揮發性ノ部分即チ水炭化水
素等ハ一度彗星核ノ界圍氣ノ境界ヲ脱シテヨリハ忽チ眞
空ノ中ニ放在サレ前章ニイヘルゴトク變シテ雲狀ノ物体
トナルナリ

雲狀物質ハ太陽ニ推シ斥ケラルヽト、上文ニイフトコロ
ハ猶未ダ此雲狀物質ノ太陽ニ遠カル所以ヲ説明スルニ足
ラズ若シ別ニ一種ノ力アリテ其ノ作用ヲ施スモノアリト
セザレバ雲狀物質ノ最微分子マデモ太陽ノ周圍ヲ匝リテ

彗星ノ核ノ軌道ト同一ノ幾何學上ノ性質ヲ有テル軌道ヲ
畫スベキヲ論ヲ俟タズ而シテ其當初ノ速度ハ彗星ノ核ヨリ
受クル所ノ微小ノ攪動ヲ除クノ外全ク相同シキニハ雲狀
物質ノ軌道ト核ノ軌道トハ殆ント同一ノモノナルベシ故
ニ彗星ノ尾ニ二重ニナリテ一ツハ前ニ立テオキ一ツハ後ニ
從テオキニツナガラ彗星ノ軌道ノ上ニ横ハリテ必(近日
點經過ノキナド)之ト殆ント眞角ヲナス等ノコトハナカル
ベシ

是故ニ爰ニハ必別種ノ力ノ全ク重力ト反對スルモノアリ
テ獨リ非常ニ稀薄ナル物質ニシテ其作用ヲ感セシメ彗星
ノ尾ノ元素ヲ驅逐シテ絶遠ノ所ニ至ラシムルコト疑フ容レ
ズ此ノ力ノ數々重力ヨリモ反テ強大ナル作用ヲ起スコトハ
彗星ノ尾ノ時トシテハ二千萬里、三千万里、四千万里、等
ノ長サニ至ルヲ以テ知ルベシ此力ノ作用ノ形狀ハ即チ彗
星ノ尾ノ形象ヲ研究シテ之ヲ發見スルコトヲ得ベシ
讀者此ニ至リテ學術ノ有力ナル所以ノ秘訣ヲ會得シ併セ
テ其短所ヲ感スルコトヲ得ベシ造化ノ力ノ作用スル定律ヲ
研究スルマデハ事實ノ微ヲ取ルベキモノアリテ吾輩ヲノ

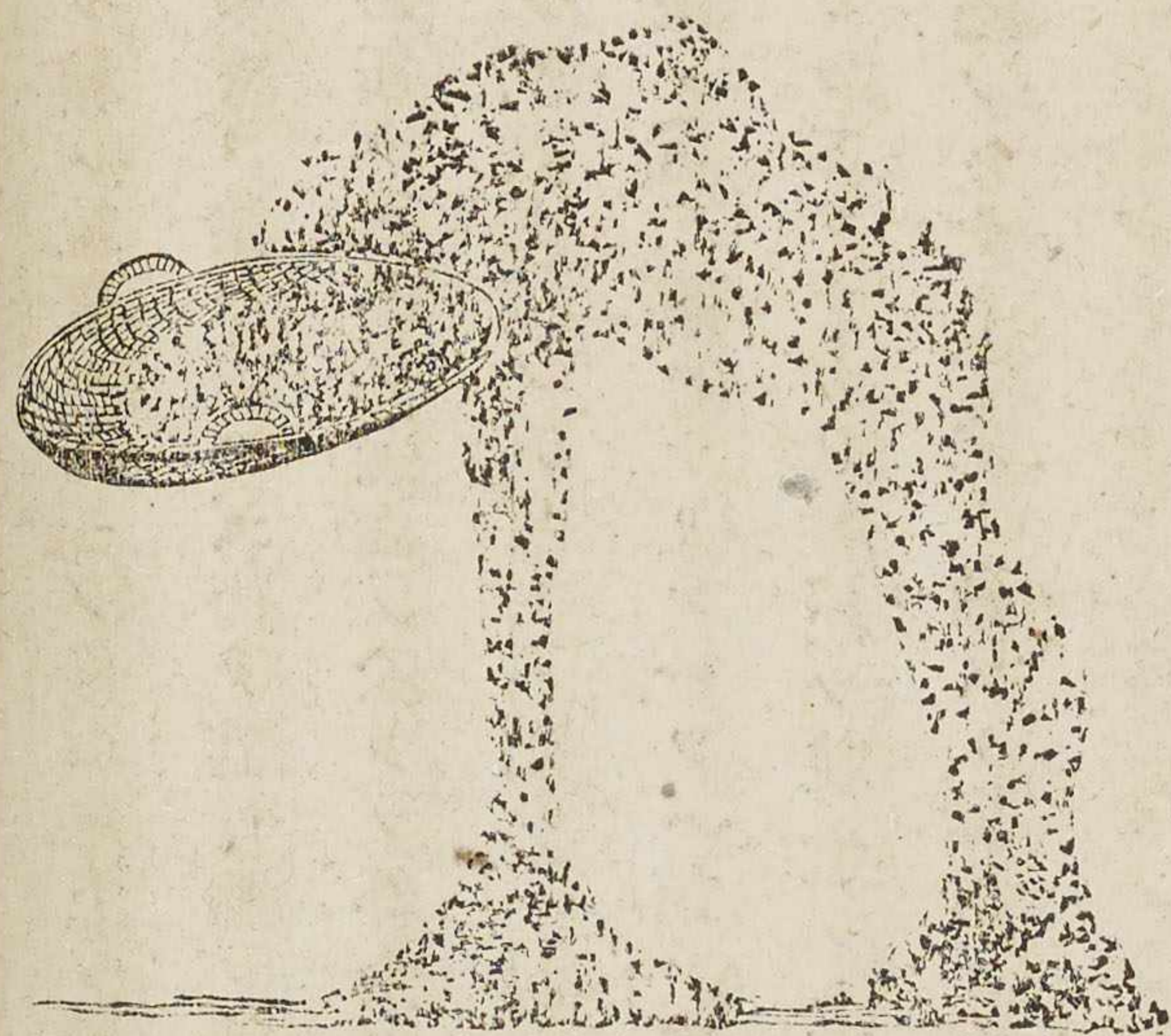
嘗テ迷津ノ慮ナカラシムレ此ノ定律ノ源因此力ノ本性ヲ討究スルニ至リテハ必援ヲ臆説ニ求メザルベカラズ是ヨリ以往ハ復タ確實ノ定説ナク人ヲノ往々隔靴搔痒ノ歎アルヲ免レシメザルナリ

太陽ノ斥力ノ作用ノ形狀、上文ニイヘル所ニ據テ彗星ノ物質ニツニ分レ一ツハ全ク從來ノ軌道ヲ踐ミ一ツハ太陽ニ逐斥セラル第一部分ハ即チ流星隕星隕石等ノ現象ノ源因ニシテ其緻密ナルヲ我ガ地球ノ固体ノ部分ニ劣ラズ之ニ反シテ逐斥サレタル部分ハ想像スベカラザルホド稀薄ナリ諸太陽ノ引力ハ此二ツノ部分ニ於テ其作用毫モ異ナル所アラズ同一時間ニ於テハ之ニ同一速度ヲ與フルヲ地球ノ引力ガ(真空ノ中ニ於テ)白金塊モ鵝毛モ同一速度ヲ以テ落下セシムルガ如シ之ヲ名ケテ質量ノ作用トイフ夫ノ斥力ノ如キハ分明ニ是レ表面ノ作用ナリ例ヲ地上ノ現象ニ取ランニ風ノ作用、越歴ノ引力及斥力、熱ヲ受クル物体ノ膨脹等皆是ナリ第一ノ力即チ引力ハ諸物体ノ最微分子中ニマデモ潛入シ如何ナル障碍物アリトモ爲メニ減殺セラレ、一ナシ例トヘバ物ヲ擲ルニ方リテ天秤ノ皿ト

地トノ間ニ如何ナル物体ヲ挿ムトモ此物ノ重サハ少シモ異ルヲナキナリ
第二ノ力即チ斥力ハ此レニ反シテ僅ニ障碍物アレバ輒チ爲メニ其作用ヲ逞ウスルヲ能ハス吾輩將ニ其明證ヲ舉ケントス

彼ノ稀薄ニシテ把ルベカラサル所ノ物質即チ彗星ノ雲狀部分ノ太陽ヨリ受クル所ノ斥力果シテ表面ノ作用ナリトスレハ此物質ノ密度愈小ナレハ此作用愈大ナルベシ即チ此作用ノ強度ハ物質ノ密度ニヨツテ必ス多少ノ差違アルベシ

第三十圖



例トヘハ水ヨリ發セシ霧ヨリモ炭化水素ヨリ來レルモノ、輕クシテ且揮發性ヲ具スルヲ大ナルエヘ其逐斥サレ、一モ較シ甚シカルベシ是レヨリ

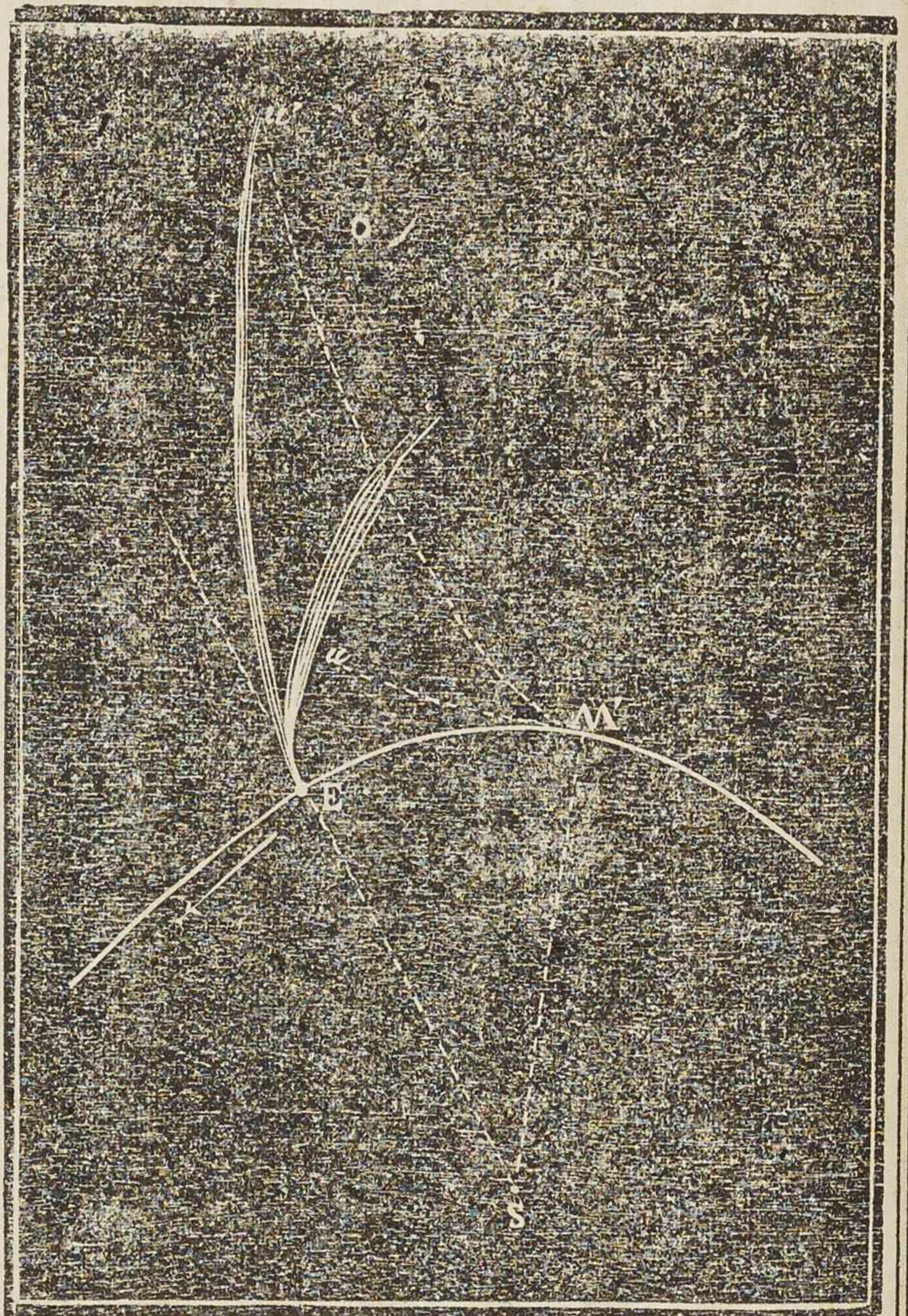
シテ起ル所ノ結果ハ甚分明ナリ即チ此ノ斥力ハ此物質ヲ

シテ起ル所ノ結果ハ甚分明ナリ即チ此ノ斥力ハ此物質ヲ
簸スルコト全ク恰モ風ノ麥ヲ簸シテ(第十三圖)其實ト穀ト
ヲ分離セシムルカ如クナルヘシ

彗星ノ複尾、上ニイヘルコト事實ニ質スルニ果シテ其實
ニ然ルコトヲ知ル蓋彗星ノ物タル唯一ノ物質ヲ以テ成レル
モノニ非ス必ヤ種々ノ性質ヲ異ニセル物質ノ集リテ成レ
ルモノタルコト疑ヲ容レヌ故ニ彗星ハ其雲狀ノ部分中ニア
リテ密度ヲ異ニセル物体ノ數ホト尾ヲ有セリ此中ニ於テ
最モ稀薄ナルモノハ無論最モ光ノ薄キモノナリ而シテ亦
後ヘノ方ニ彎曲スルコトノ最モ少キモノナリ請フ幾何學上
其理ヲ論セン(第十四圖)

例トヘハ二ツノ部分ノ密度ヲ異ニセルモノA、A'、同シク
Aナル点ニアリテ太陽ノ斥力ヲ受クトセンニAナル物質
モシA'ヨリ重ケレハ其太陽ヨリ受ルトコロノ加速力較、
小キユヘAEナル軌道ノ外ニ迸出スルコト較、少クAaナ
ル雙曲線ノ弧ヲ畫スヘシA'ナル質物ハ較、輕キカユヘニ
逐斥サル、コト較、甚シク較、狹キ雙曲線ノ弧A'a'ヲ畫スヘ
シ彗星ノEニ至ルコロハA、A'ナル二分子一ツハaニ至リ

第十四圖



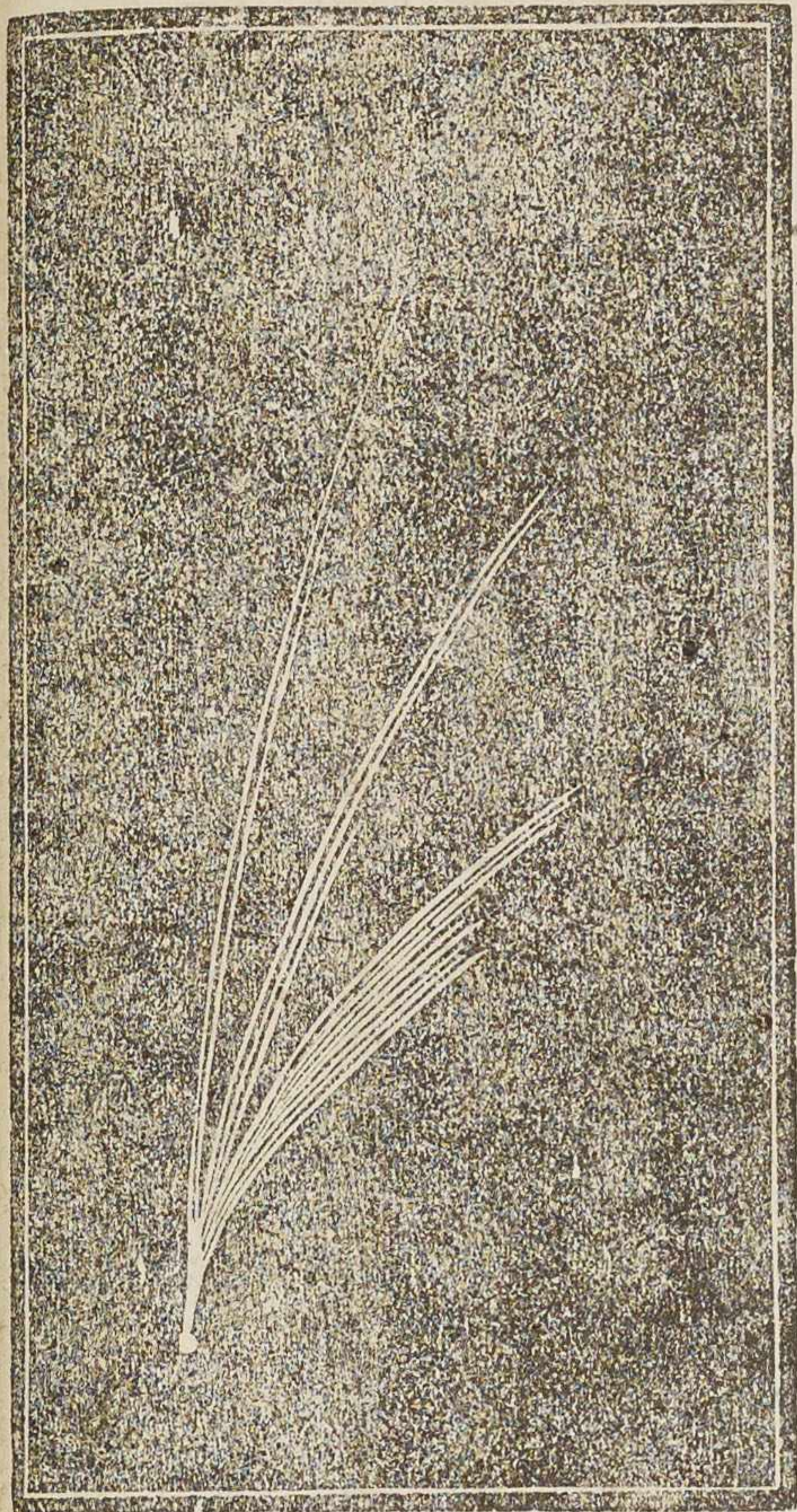
一ツハa'ニ至リESA、a'SA、a'SA'ナル三ツノ扇形面
積互ニ相等シカルヘシ唯圖面ヲ一見スレハa、a'ナル二
点ハ同シクSEナル動徑ヲ引キ延ハシタルモノ、後ノ方
ニアリテaハa'ニ比スレハ最モ此動徑ニ遠カルコトヲ知ル
ナリ試ニ此二ツノ尾ノ軸EaトEa'トヲ畫カ、ハ第一ノ
モノハ第二ノモノニ比スレハ最モ甚シク彎曲セルヲ見ル
ヘシ故ニ彗星ノ尾ノ彎曲ノ度ハ其物質ノ密度ニ因テ異ル
モノナリ
サレハ彗星ノ複尾ノ形象ヲ推シテ其受ル所ノ太陽ノ斥力
ノ強度ヲ計算シ得ヘキノミナラス逐時迸出シテ尾ノ各部

殺セラル、コトナシ例トヘバ物ヲ擲ルニ方リテ天秤ノ皿ト

カルベシ是レヨリ

トナリシ分子ノ運動ノ狀景ヲモ詳ニ定ルコトヲ得ヘシ彎曲ノ度最モ薄キモノハ最モ鬆ナル物質ヨリ成レルヲ以テ其光最モ薄ク且ツ常ニ他ノ尾ニ先ツヘシ然レトモ他ノ尾ト同シク嘗テ彗星ノ軌道ノ平面ノ外ニ出ルコトハナキナリ又彎曲セサル尾ハアルコト能ハス何ントナレハ尾ヲシテ直進セシムルニハ必極大ノ斥力ヲ要スヘケレハナリ但シ觀察者恰モ彗星ノ軌道ノ平面ノ上ニアルコト數々アリ此時ハスヘテノ尾皆一ツニ混シテ且ツ直線ヲナセル様ニ見ユヘシ左ニ擧ル所ハドナチイノ彗星ト稱スルモノノ圖ニシテ其尾三ツアリ而シテ其最モ前ノ方ニアリテ彎曲ノ度最モ薄キモノハ隨分強力ノ望遠鏡ヲ用サレハ見ルコトアタハサルナリ(第十五圖)

第五十圖



此彗星ノ軌道ノ計算ニヨルニ此圖ニ著ハス所ノ象ハ觀察者ノ位置、彗星ノ復尾ヲ直チニ見下スニ恰好ナリシ時ノ形象ナリ

吾輩ハ上文ニイヘルコトノ委曲ナルコトニ就テハ更ニ復タ贅辨ヲ費スヲ要セスト信ス唯爰ニ一言スヘキコトハ近來美觀ナル彗星ノ出現スルコトニ實際ニ就テ觀際スルニ吾輩カ述ヘシ處ノコトニ毫モ差フモノハ未タ嘗テ之アラサルナリ

譯者曰フアイ、氏ノ彗星論ハ此ニ盡クルモノニ非ス然レトモ此ノ以下ニ説ク處ノ者ハ主トシテ太陽斥力ノ源因ノ論ニ係リ即チ氏ノ所謂事實ノ範圍ヲ超エテ臆説ノ區域ニ入ルモノナレハ今此ニハ之ヲ省畧シ此稿ヲ以テ彗星論講譯ノ終尾トス

○蠕蟲獲集並ニ貯藏法(續稿) 石川千代松

繭蟲及ヒ二口蟲ノ變体ハ住所ノ異ナルニ因テ變ス即チ此諸動物ハ一個ノ動物ノ体内ニテ其變体ヲ遂ルモノニアラスシテ少クトモ二個ノ動物ノ体内ヲ經過スルノ後其變体ヲ遂ケ一生ヲ終ルモノナリ
繭蟲ハ皆非常ニ大數ノ卵ヲ生ス此ノ一點ニ於テハ動物中

其右ニ出ルモノナカルベシ其長キモノハ數尺或ハ丈餘ニ

ナス既ニ鉤ハ其目的ヲ達シタルカ故ニ消失シ又其体ノ

其右ニ出ルモノナカルベシ其長キモノハ數尺或ハ丈餘ニ至リ其体ハ數百ノ環節ヨリ成ル而テ每環節ニ數千ノ卵ヲ生ス此莫大ナル卵ノ大半ハ消滅スヘシト雖ヒ皆ナ能ク寒暖ニ堪ヘ乾濕ヲ凌クト云フ

繚蟲ノ發生ニ三期アリ第一有鉤蟲第二囊狀蟲第三有性蟲其發生經過ノ模様ハ左ノ如シ

長節繚蟲 *Taenia solium* ノ卵子ハ卵巢ヨリ出テ「ユテラス」

ニ至リ有鉤蟲トナル其形ハ稍橢圓ニシテ一端ニ六個ノ鉤

ヲ具ヘテ母体ニ止ルノ間ハ生長スルヲ無ク且自ラ運動力

ヲ保タサレハ唯家猪ノ胃中ニ入りテ生長ヲ逞フスルノ好

時機ヲ待ノミ

右有鉤蟲ヲ体内ニ有スル繚蟲ノ環節ハ人糞ト共ニ排泄セ

ラレタリト雖ヒ其後來ノ生長ヲ得ル時機ハ實ニ少シト云

フヘシ

右ノ如クニシテ有鉤蟲ハ數日或ハ數月ノ間人糞中ニ住シ

唯家猪ノ來テ人糞ト共ニ已ヲ食ハントヲ待ノミ若シ有鉤

蟲ハ家猪ノ胃中ニ入ルヲ得ハ其鉤ヲ以テ家猪ノ胃壁ヲ

破リ筋肉ニ進入シ茲ニ於テ筋ハ之ヲ圍ミテ袋狀ノモノヲ

繚蟲ハ皆非常ニ大數ノ卵ヲ生ス此ノ一點ニ於テハ動物中

ナス既ニ鉤ハ其目的ヲ達シタルカ故ニ消失シ又其体ノ一端ニ於テ新ニ鉤ヲ生ス此期ヲ名テ囊狀蟲ノ期ト云フ囊狀蟲ハ此ノ有様ニテ幾日幾月若クハ幾年モ猪肉中ニ寄生シ少モ生長スルヲ無シ

右ノ如クニシテ囊狀蟲ハ猪肉中ニ潛眠シ人或ハ他動物ノ胃中ニ入ルヲ得始テ睡起ス茲ニ於テ其囊ハ消滅シ蟲ハ出

テ、胃ヨリ腸ニ入り其鉤ヲ以テ腸ノ内皮ニ附着シ滋養物

ヲ取り速ニ生長シ再ヒ卵ヲ生スルニ至ル

Enchocoelata ト稱スル繚蟲ノ囊狀蟲ハ猪肉ニ在ラヌ

シテ牛肉ニ在リ其長節繚蟲ト異ナル所ハ鉤ヲ有セサルニ

アリ此繚蟲ハ數年間長節繚蟲ト同種ナリト認定セラレタ

リシカ遂ニ西曆千八百五十二年ニキ、コヘンマイステル

ト云フ人始テ其異種ナルヲ發見セリ

此繚蟲ハ米國合衆國並ニ歐洲ニ少クアビシニアニ多シト

云フ其理由ハアビシニア人ノ多ク生ナル牛肉ヲ食スルニ

ヨレリ

Enchocoelata ハ犬ノ繚蟲ニシテ其卵ハ犬ノ糞ト共ニ出テ、野

草ニ附着ス若シ兔ノ之ヲ食フモノアレハ有鉤蟲ハ卵囊ニ

リ出テ胃壁ヲ破リ「ペリト」ニアム」ニ至リテ囊狀蟲トナ
ル犬此兎ヲ食フ時ハ囊蟲ハ其腸ニ至テ生長ス

T. cucumeria モ又犬ノ絛蟲ナリ其發生ノ經過ハ誠ニ奇ナ

リ其卵ハ犬ノ糞ト共ニ出テ、肛門ノ邊ノ毛ニ附着ス然シ

テ犬ノ体ニハ *Trichodectes canis* ト稱スル蟲ノ一種アリ

テ犬ノ毛ノ中ニアルモノヲ何ニ限ラス食スルノ常習アレ

ハ此絛蟲ノ卵モ其体内ニ入りテ囊狀蟲トナリ蟲ト同ニ犬

ノ食道ニ入り生長シテ又卵ヲ生ス

T. caemeris モ又犬ノ体内ニ寄生スル絛蟲ナリ此絛蟲ノ卵

ハ糞ト共ニ草上ニ落テ羊之ヲ食スレハ有鉤蟲トナリ食道

ヲ破リ血脉管ニ至リ血液ト共ニ腦ニ入ルニ及テ「ギツド」

ト名クル病ヲ發シ死ニ至ラシム然テ犬其肉ヲ食スレハ又

体内ニ入テ絛蟲トナル

Bothriocephalus ト稱スル絛蟲ノ一屬ハ *Taenia* ト異ナリ

テ多クハ冷血動物ノ体内ニ寄生スルモノナレトモ人間ノ体

内ニモ寄生シ其幼子ハ多ク魚類ノ肝臟及ヒ腹腔ニアリテ

存ス

B. solidus 「トゲウオ」ノ腹中ヨリ水禽ノ食道ニ入ルモノ

ナリ

肝蛭類 *Trematodes* ハ皆寄生物ニシテ身体ハ至テ細微

ニハ、廣シ環節ナシ口ハ常ニ体ノ前端ニアレトモ時トシテ

ハ下面ニ位スルコアリ口ノ後ハ吸盤アリ食道ハ屢ハ左右

ニ分岐シ皆肛門ヲ有セス

水血管ハ能ク發開ス神經ハ概シテ之レヲ有セスト雖ヘモ

偶之ヲ有スルモノハ食道ノ上邊ニ神經節アリテ之ヨリ數

箇ノ細枝ヲ發スルノミ

クラウス氏ハ肝蛭類ヲ分テ二口蟲類 (*Distomum*) 及ヒ多

口蟲類 (*Polystomum*) トナス二口蟲類ハ内臟寄生蟲ニシ

其發生經過ニ有性無性ノ二期アリ

多口蟲ハ動物身体ノ外部ニ寄生スル蟲類ニシテ眼點ヲ有

シ体ノ前部ニ二個後部ニ一個或ハ吸盤ヲ具フ

肝蛭類ノ發生經過

多口蟲ハ直チニ卵ヨリ生スルモノナレハ其發生經過ニ別

段奇ナルコトナシト雖ヘモ二口蟲ハ濕地或ハ水中ニ産卵シ

卵ハ孳化ノ水上ニ浮遊シ他動物(一般ニ軟体動物)ノ腹中

ニ入りソノ形狀ヲ變ス名ケテ「レシヤ」ト云フ(第一圖イ)

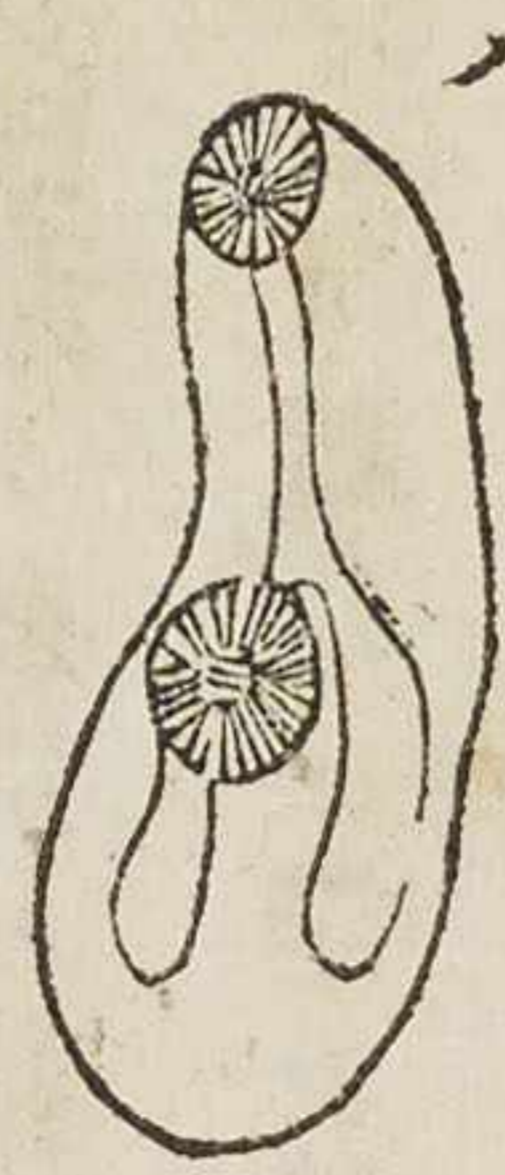
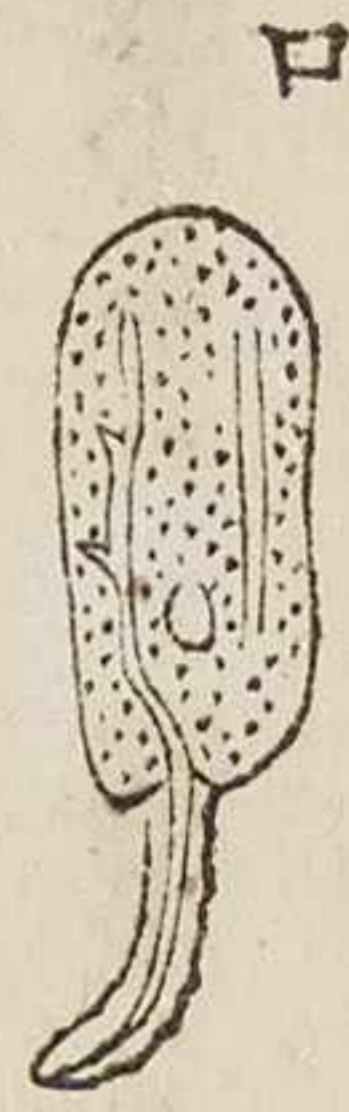
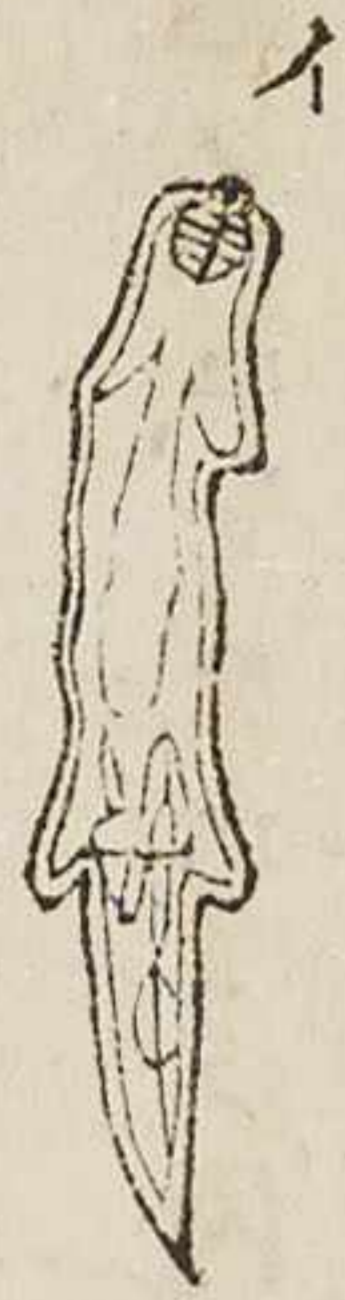
此ノレシヤノ体内ニ數個ノ幼子ヲ生ス名ケテ「サルカリ

此ノ蟲類ハ溜水中ノ枯葉等ニ附着シ又タ寺堂杯ノ洗水桶

B. solidus ハ「トゲウオ」ノ腹中ヨリ水禽ノ食道ニ入ルモノ

ニ入リソノ形狀ヲ變ス名ケテ「レシア」ト云フ（第一圖イ）

此ノレシアノ体内ニ數個ノ幼子ヲ生ス名ケテ「サルカリ
ア」ト云フ（第二圖ロ）



「サルカリアハレシア」ノ体ヨ
リ出テ、水中ヲ浮遊シテ他動
物ニ寄生シ（蠕蟲、六足蟲ノ蛹
或ハ蝦類等）其筋肉ニ入り潛
眠シ數日或ハ數月ノ後水禽或
ハ他動物ノ此サルカリアヲ体

内ニ宿スル動物ヲ食スルコトアノハ直チニ發開シテ有生ニ
口蟲トナル（第三圖ハ）

Distomum hepaticum. 肝蛭ハ羊及ヒ他ノ家畜、獸ノ肝藏中

ニ寄生シ時々人類ニモ寄生スルコトアリ

Turlellaria ウルベラルリア 類ハ淡水水面ニ住シ或ハ濕地ニモ住スルコト

アリ其形狀ハ扁平ナルモアリ又タ細長ナルモアリテ皆体
上ニ氈毛ヲ有ス口ハ体ノ前端或ハ下面ノ中央又或ハ後端
ニ近シ位シ下等ノモノニ至テハ食道ヲ有セサルモノ多シ
神經節ハ二個ニシテ体ノ前端ニアリ其ヨリ体ノ兩側ニ纖
緯ヲ發ス高等ノモノハ眼點及ヒ耳囊ヲ具フ

此ノ蟲類ハ溜水中ノ枯葉等ニ附着シ又タ寺堂杯ノ洗水桶
ニ多シ

Nemertini ハ海岸ニテ潮水ノ干満スル處ニ多シ淡水中
ニ住スルモノモアレモ海産ニ比スレハ稍少シ此蟲類ハ柔
軟ニシテ長ク扁平ニシテ氈毛アリ其色ハ赤綠黃等ナリ口
ハ体ノ下面ニアリ神經ハ二個ノ中心アリテ之ヨリ細末ノ
纖緯ヲ發ス

線蟲 *Nemathelminthes*.

線蟲ハ海水ノ淺處並ニ淡水中ニ産シ又タ濕地ニモアリト
雖ヘモソノ大半ハ寄生蟲ニシテ魚類哺乳動物等ノ体中ニ
寄生ス其形狀ハ圓クシテ非常ニ長ク眞ノ環節ナシ体ノ前
端ニ乳狀突起様ノ物ヲ有スルモノアリ又タ或ハ鉤ヲ具フ
ルモノアリ口ハ体ノ前端ニアリテ肛門ハ後端或ハ後端ニ
近キ處ニアリ

線蟲ヲ分テ左ノ二類トナス

棘頭蟲 *Acanthocephali*.

線糸蟲 *Nematodes*.

棘頭蟲ハ口及ヒ食道ニ乏ク体ノ前端ニ棘アリ諸動物ノ

食道ニ住ス

エカイノリンカスト云フ蟲ハ棘頭蟲ノ一ニシテ其種類ハ皆其生スル時ヨリ成蟲ニ至ル迄兩三個ノ動物ニ寄生スルモノナリト即チ *H. sigus* ト云フ蟲ハ豚ノ小腸ニ寄生シ甲蟲ノ腹中ニ入り稍變シテ又タ豚ノ小腸ニ寄生ス

線系蟲ハ長キ圓筒形ノ体ヲ有シ口及ヒ食道ヲ具フ

線系蟲ノ變形 線系蟲ハ其種類多クシテ他動物ニ寄生ス

ルモアリ又寄生セサルモアリソノ寄生スルモノハ非常ノ

生活力ヲ有シ其卵ノ如キハ數年間干乾スルモ死スルコト無

シト云フ

線系蟲ノ雌雄ノ差別ハ甚タ奇ニシテ一個ニシテ両性ヲ有

スルモノヨリ雌雄ノ全ク異リタル蟲類ニ至ル迄數多ノ變

形アリテ雌雄ノ同シ様ナルモアレハ又タ其全ク異ナリテ

雄蟲ノ微少ニシテ雌蟲ノ寄生物トナルモノアリ即チ *Tri-*

chosomeum crassicauda ノ雄蟲ハロイカルト氏ノ説ニ因

ハ雌蟲ノ「ユテラス」ノ内ニ寄生スト云フ若ノ如キハ一個

蟲ニシテ両性ヲ有スルモノニ稍近シ

Queilanus elegans ト云フ蟲ハグッチー氏ノ實驗ニ因

ハ淡水中ニアリテ「ミジンコ」(甲壳蟲ノ一種)ノ体内ニ住シ河魚ノ腹中ニ入ル

カイチウノムシ *Ascaris lumbricoides* ハ小兒ノ胃腸ニ多ク寄生ス

此ノ蟲類ノ最モ恐ルヘキモノハ *Trichina spiralis* ト稱スル

モノニシテ其幼時ハ豚ノ肉中ニアリ人ノ食道ニ入りテ始

メテ成長ス又タ *Filaria sanguis-hominis* ト稱スル蟲アリ

細微ナル線蟲ニシテ東印度支那等ニ産スル蚊蟲ノ血液

ニ住シ其卵ヲ水中ニ産スト云フ卵ハ水ト共ニ人ノ食道ニ

入り孳化シテ血管ニ進入シ諸病ヲ起スト云フ

套言譯語

○東京數學會社及工學協會聯合譯語會議決 (第三)

Mean proportional 比例中數

Measuration 算測法

Metric System 米突法

Minor Axis 短軸

Normal 法線

Notation 記法

Oval

卵形

Spherical triangle

球面三角形、球面三角

Oval	卵形
Parabola	拋物線
Paraboloid	拋物線體
Parallel	平行
Parallelogram	平行四邊形
Parallelepipedon	平行六面體
Perpendicular Line	垂線
Plane	垂面
Plane triangle	平面三角、平面三角形
Power	自乘
Prism	角壙
Projection	射影
Isometric	等大
Orthographic	垂
Pyramid	角錐
Rectangle	矩形
Rhombus	菱形
Rhomboid	偏菱形
Radius Vector	動徑
Reciprocal	反數
Sector	扇形
Segment	弓形

Spherical triangle	球面三角形、球面三角
Spheroid	球狀體
Oblate	扁球
Prolate	長球
Square	方形
Solution	解式、解方
Truncated	截頭
Trapezium	不平行四邊形
Trapezoid	梯形
Trigonometrical Functions	三角法函數
Sine	正弦
Cosine	餘弦
Tangent	正切
Cotangent	餘切
Secant	正割
Cosecant	餘割
Versed sine	正矢
Coversed sine	餘矢
Volume	立積
Vertical	垂直
Tangent	切線
Subtangent	次切線

○物理學譯語會議決

(第七)

英

佛

獨

和

Pencil

Faisceau

Bündel

束線

Illumination

Eclairment

Belichtung

照

Transparent

Transparent

Durchsichtig

透明

Opaque

Opaque

Undurchsichtig

不透明

Translucent

Translucide

Durchscheinend

半透明

Reflection

Réflexion

Zurückwerfung

反射

Total

„ totale

Totale „

全

Refraction

Réfraction

Brechung

屈折

Index of Refraction

Indice de Réfraction

Brechungsexponent

屈折率

Photometer

Photomètre

Photometer

光度計

Mirror

Miroir

Spiegel

鏡

Prism

Prisme

Prisma

プリズム

Lens

Lenzille

Linse

レンズ

Focus

Foyer

Brennpunkt

焦點

Dispersion

Dispersion

Zerstreuung

分散

Critical Angle

Angle Limite

Grenzwinkel

境角

○東京化學會譯語議決

(第五)

I

Ignition	發火、点火、炒熬
Ignition point	發火点
Impure	不純
Impurity	夾雜物
Incandescence	熾灼
India Rubber	彈性護膜
Indicator	指示藥
Inflammability	可燃性
Infusion	浸液
Ingredient	含分
Inorganic substance	無機物
Insolubility	不溶性
Inversion	轉化
Irritant	刺戟劑
Isolation	孤立
Isomerism	同分異性

Isomorphism

類分同形

K

Kindling point

發火点

L

Lactic Fermentation

乳酸發酵

Lake

レイキ

Lamp Black

煙煤

Liberation

遊離

Lime, quick

生石灰

”, slaked

消石灰

Liquefaction

液化

Liquid

液体

Litmus

リトマス

M

Medical chemistry

醫化學

Melting point

融解點

Menstruum

消液

Metal

金屬

Metalloid	類金屬
Mixture	混合物
Mobility	輕動性
Modification	變狀
Molecule	分子
Mordant	媒染劑
Mother liquor	母液
N	
Nascent	發生鹽
Neutral	中性
Neutralization	中和
Normal pressure	通壓
„ salt	正鹽
„ solution	規定液
„ temperature	溫度
Non-metal	非金屬
O	
Organic matter	有機物

Osmose 滲透
Oxidation 酸化

(以下次號)

雜 錄

○寄高僧諸師書

天台道士

ト出掛テハ何ダカ學者ラシイカ道士ハ元來學者デモ醫者
 デモ僧侶デモナイ況シテ素町人デモナケレハ土百姓デモ
 ナイガチト人カラ頼マレテ高僧諸師ニ御願ノ次第アツテ
 茲ニ現ハレ出デタルハ余ノ儀ニテモ之レ無ク高僧諸師ノ
 職業ノ親族タル御醫者先生ハ人体ノ機關ヲ一々ト見届ス
 テハ其機關ノ損所ヲ癒スヲガ六ケシイニ因テ何トカシテ
 死体ヲ申請ケ高僧諸師へ御渡シ申ス其前ニチユツト其死
 体ノ皮ヲ剥ガセテ機關ノ仕組ヲ細ニ見届ケ跡ハ元ノユウ
 ニ皮ヲ着セテ高僧諸師ニ御願申シテ極樂往生ノ引導ヲ渡
 シイタゞキタイノダガサテ其御願ノ筋ト申スハ其死人ノ
 親族ナドハ死ンダ後デモ未タ痛タカロフナンド、考ヘテ
 何分死人ノ皮ヲ脱ガサウト承引セヌモノガ百人中九十九

人マデハ皆ナ左様デゴザルカラ何卒トゾシテ高僧諸師ノ

キヲナレバ遅カレ早カレド一セ一度ハ諸師ノ御厄介ニ相

八マデハ皆ナ左様デゴザルカラ何卒トツシテ高僧諸師ノ
 雄辨ヲ拜借致シテ此輩ヲ説諭シ其親族中コ死人カアツタ
 ラ一度ハ御醫者ニ渡シテ能々身体ノドコカラドコマデ檢
 査サセタラ御醫者ハ愈上手ニ成ルヲ疑ナシ飯令ヘハ時計
 屋カ時計ノ損所ヲ直スニハ必ス其器械ノドコカラドコマ
 デモ能ク詮議シテ何處ニ損所ガアルト見届ルダロウ御醫
 者ガ人体ノ損所ヲ療治スルハ時計屋ガ時計ヲ直スト同様
 ナレバ成ルベク機關ノ仕組ヲ知ラセテ遣ラ子バナルマイ
 ナト御宗旨違デアリマヌガ儒者ノ隊長タル孔子ハ身ヲ殺
 シテ仁ヲ成ストマデ言フテ居ラレタ況シテ死後ニ仁術ノ
 助トナルハ死人ニ於テモ満足此上ナキ筈ナレバ高僧諸師
 モ此邊御含ミアツテ斯ク死シタルノ後マデモ苦行ヲスレ
 バ極樂往生疑ナキ旨吳々御説諭アリタキナリ併シ斯ク申
 サバ若シ高僧諸師ノ御説諭ニ因テ追々死体解剖志願ノ者
 ガ出來爲メニ醫術モ進歩ノ死ヌル者ガ少クナリ高僧諸師
 ニハ持タ棒デ面トデモ云ベキ損害ヲ醸スベシナド、考ヘ
 ラル、方モ有ルベケレト是レ大ナル誤解ニテ醫術カ如何
 程進歩シタトテ不老不死ノ術ヲ發明スルコトハ迎モ覺束ナ

キコナレバ遅カレ早カレド一セ一度ハ諸師ノ御厄介ニ相
 成ルコト故此邊ニ御心配ハ御無用ト考ヘラル且又諸師中ニ
 ハ斯ク新奇ノ説諭ヲ致シタラ檀家ノ滅スル恐レアリト云
 ハル、方アルベケレド左様ノ御説ハ高僧諸師ニアルマジ
 キ御説ニテ斯ク新奇ノ説ヲ御出シナサレテモ益々檀家ノ
 信用ヲ得ラレテコソ眞ノ高僧ニテ世間ノ人々吾々ニ到ル
 マデ愈諸師ノ高德ニ服スベケレバ何分御憤發アリテ一層
 ノコ高僧諸師ノ内ニテ遷化アリタルキニハ先自隗始トノ
 古事ニ基キ自分ニ解剖志願致サレ他ノ手本ニナラレタナ
 ラバ其功德ハ百日ドコロカ千日ノ説法ニモ愈ルベシ謹白

○素徒シロオト西洋料理法第一回 汲々夫

第一味

〔肉羹〕^{ソップ} 並ノ牛肉(可成ハ屠牛後二三日立チタル者)半斤
 乃至一斤ヲ洗ヒ小刀ヲ以テ汚物ヲ刮リ落シ再ヒ洗ヒテ鹽
 一ヒヲ擦リ付ケ水(可成ハ河水)四合許ヲ以テ土鍋或ハ鉄
 鍋ニテ烹立テ暫クシテ浮泡ヲ抄ヒ取リ小許ノ胡椒、桂枝
 ノ葉及ヒ生姜ヲ投シ弱火ヌルヲ以テ三四時間烹詰メヘシ一時
 間烹タル時浮キ脂ヲ取り去ルヘシ又人參、防風或ハ旱芹ハス

菜等ヲ加ヘ烹レハ少シク強キ味ヲ得○右ハ肉羹ヲ製スル
通常ノ法ナリ之ヲ土臺トシテ各種ノ美羹ヲ製スルヲ得今
夕ハ先ツ此儘ニテ食スヘシ○右烹詰メタル羹肉モ亦猶滋
養分ヲ存スル者ナレハ決シテ鹿末ニス可ラス（市中ニテ
賣買スル牛肉佃煮牛肉罐詰等ハ羹肉ヲ以テ製スル者多シ
トス）之ヲ食スルニハ醬油或ハ汁類ヲ掛クルヲ宜シトス
後日汁ノ製法ヲ記スル時適當ノ者アルキハ必ス之ニ注意
スヘシ

第二味

〔醋漬ケ魚〕 鯛、青魚、鰯等總テ魚類ノ腹綿ヲ奇麗ニ取り
蒸籠ニテ蒸シ之ヲ冷ヤシ壺又ハ深キ重茶碗ノ底ニ一ト並
ヘシ薄ク切りタル玉葱、桂枝ノ葉、丸胡椒、肉豆蔻及ヒ鹽
ヲ並ヘタル魚ノ上ニ敷キ藥味ヲ越ス程醋ヲ掛ケ又其上ニ
魚ヲ一並ヘ置キテ藥味ヲ敷キ斯ノ如ク交ル々々重子合セ
テ魚ヲ最上層トシ善ク蓋ヲ爲シ置ケハ數ケ月間貯蓄スル
ヲ得ヘシ又即日食スルモヨシ食スル時ニハ桂枝ノ葉ヲ
去リ「サラダ」油ヲカケヘシ

第三味

〔牛舌牛酪烹〕 新シキ牛舌ヲ彫ニテ善ク擦リコサゲ牛舌
一個ニ付キ鹽半杯程ヲ以テ四時間程湯烹テ之ヲ冷ヤシテ
上ノ皮ヲ剥キ取り入用丈ケ薄ク切り牛酪ニテ烹ルヘシ○
殘餘ノ分ハ蓄ヘ置キ明日食スヘシ又湯烹テ冷ヤシタル儘
芥子等ヲ付ケ食スルモヨシ

〔菜花〕 菜花ヲ沸騰湯中ニテ和カクナルマテ湯烹テ取り
出タシテ水氣ヲ去テ鍋ニ牛酪ヲ溶カシ温飽粉ヲ入レテ攪
キ廻シ牛乳ト鹽ヲ加ヘテ再ヒ攪キ廻シ充分ニ烹立テ泥
的ニナリタル時前ノ湯烹タル菜花ヲ入レ轉ケ廻シテ汁ヲ
付ケ直チニ下シテ食スヘシ

第四味

〔鍋ロース〕 鍋ニ牛酪ヲ溶カシ置キ鳥肉或ハ獸肉ノ周圍
ニ鹽ヲ擦リ付ケテ鍋ノ中ニ投シ弱火ニテ氣長ニ燻キ時々
尖リタル箸ヲ刺シテ燻ケ加減ヲ試ムヘシ箸ノ疵痕ヨリ血
ノ出テサルヲ相圖トシテ鍋ヲ下シ食スヘシ
〔馬鈴芋サラダ〕 奇麗ニ洗ヒタル馬鈴芋（可成ハ白芋）ヲ
和カク烹皮ヲ剥キテ輪切ニシ細ク切りタル葱、胡椒、醋、
鹽及ヒ「サラダ」油ヲ混合シ之ヲ馬鈴芋ノ猶小温氣アル内

ニ掛ケテ能ク交セ食スヘシ又旱芹菜、蒜、細ク切タル生魚

ニアラサレハ幾ト其何物タルヲ知ルニ由ナシトス之ヲ購

鹽及ヒ「サラダ」油ヲ混合シ之ヲ馬鈴芋ノ猶小温氣アル内

ニ掛ケテ能ク交セ食スヘシ又早苺菜ニシニク、蒜ニシニク、細ク切タル生魚等ヲ加フルモヨシ

後口アトクチ

〔凍葡萄酒〕葡萄酒一杯水及ヒ砂糖各々半杯ヲ鍋ニテ沸騰シ上等ノ葛クヱ少許ヲ水ニテ溶カシ之ヲ右ノ葡萄酒中ニ入レテ善ク攪キ廻シ成丈ケ冷ヤシテ食スヘシ（可成ハ氷ニテ冷ヤスヘシ）

〔茄菲〕茄菲ノ烹様ハ容易ニ付キ畧ス（晚餐終）

料理心得

凡ソ手馴レヌ新事ニ執リ懸ルハ至テ大儀ノ者ナルカ西洋料理ヲ企ツルモ亦然リ日本料理ナレハ出入ノ肴屋八百屋等アリテ魚類野菜ノ如キ居ナカラ購フコトヲ得ヘシ膳椀箸皿ノ類モ整ヒ居レヒ西洋料理トナレハ先ツ麵包パンノ求メ方ニサヘ不案内ナルニ料理ニ用フル者ハ何カト云ヘハ或ハ肉豆蔻ニクツク早苺菜バスレート云ヒ或ハ「セード」「タイム」ト云ヒ皆唐人ノ寢言ノ様ナ品ニテ嘗テ見モ聞キモセシコトナキ者多ク其物名ニハ蘭語モアリ英語モアリ佛語、獨語、印度語、支那語、橫濱語、庖僕語等互多交ニシテ萬國對譯辭書ヲ有スル

ニアラサレハ幾ト其何物タルヲ知ルニ由ナシトス之ヲ購フニハ當ニ出入八百屋ノ便ナキノミナラス態々使ヲ出タシテ搜索セシムルモ果シテ尋子當ルカ當ラヌカモ分ラヌ上ニ肉ヲ烹ルニハ鍋ナク之ヲ切ルニハ小刀肉刺ナキ等甚タ些細ナル故障ノ爲メニ妨ケラレ折角ノ思ヒ立チモ實施スル能ハサルコト多シトス然ラハ詰ラヌ事ノ様ナレヒ次ノ諸件ヲ記シテ以テ諸君ノ參考ニ供スルハ敢テ無用ニアラサルヘシ

一麵包屋ハ市中ニ澤山アレヒ僕ハ築地新港町五丁目一番地葛本或ハ本郷弓町一丁目十一番地關口喜三郎ヨリ求ム端書ヲ一本出タセハ半斤以上ノ麵包ナレハ日々持參ス
一右關口ナル男ハ至極好人物ニテ西洋料理ノ事ニ精シキ故顧問ト爲セハ甚タ重寶ナリ西洋菓子類モ氏ニ就キ求ムヘシ
一牛肉屋モ市中ニ澤山アレヒ「ヒレー」肉、「ビステキ」肉、肝臟、腎臟、舌等ノ好ミアルキハ何店ニテモ求ムルヲ得ヘカラス故ニ可成ハ少シ大イナル牛屋ヲ出入リニシテ

置シテ便利トス

一西洋野菜類ハ牛込佐土原町安藤ナル西洋野菜園主ニ就
キ求ムヘシ又西ノ久保青山等ニモアリト云フ

一割烹用必用ナル薬味類ハ胡椒、芥子、醋、鹽、「サラダ」
油、丁子、桂枝ノ葉、「セード」、「タイム」、肉豆蔻、牛酪、

豕或ハ牛ノ凝脂等ナリ胡椒、芥子等ハ一瓶二十錢前後、
食用罐詰牛酪ハ一斤七八十錢、割烹用罐詰牛酪ハ一斤

五十錢ナリ右ハ小川町丸屋、通り竹川町龜屋、淡路町龜
屋出店等ニ於テ求ムヘシ和製新牛酪ハ五番町牛乳屋坂

川ニ於テ求ムヘシ一斤壹圓ニテ少シク高價ナレ味甚
タ美ナリ同家ニテハ日々新牛酪ヲ製シ諸方ヘ配達スル

ヲ以テ暑中腐敗ノ恐アル時等ニハ小買ヲ爲スニ妙ナリ
又牛乳ハ勿論牛乳ノ上澄モ同家ヨリ配達ス

一割烹書ハ千八百八十二年横濱出版ノ西洋料理手引草ナ
ル者アリ又本年一月日本西洋料理指南(價十六錢)ナル

者出版ニナリタリ日本橋通三丁目十七番地秩山堂、小
川町九番地右支店及ヒ其他ノ諸書肆ニテ求ムヘシ

一器具ハ成丈ケ後廻シニスヘシ器具ノ整フヲ待テ割烹

セント欲スルハ猶先ツ土藏ヲ造リテ後ニ金ヲ蓄フルカ

コトシ○例ヘハ茄菲ヲ烹ルニ必スシモ茄菲器械(茄菲
器械ハ價三四十錢ヨリアリ)ヲ要セス茶ヲ烹ルト同様

土瓶ヲ用ヒ暫時火ニ掛ケ茶篩子ニテ漉シテ可ナリ○今
回ノ料理ハ盡ク日本ノ器具ニテ調理スヘシ次回ニハ天

「ピン」ト稱スル極簡易ナル器械ノ装置ヲ記スヘシ

○ちよ、たくにて、くろいたにてん

せん、れひく、志かた。ご、と、れ、ま、きた。

ちよ、たくの、ぼ、れ、の、さ、さ、より、一、すん、二

ぶ、ぐらい、の、と、ころ、れ、れ、や、ゆ、び、と、ひ、と、さ、

ま、ゆ、び、にて、もち、ちよ、たく、の、さ、さ、れ、か、る

く、いた、に、あ、て、ちよ、たく、と、いた、の、あ、い、

だ、の、か、く、と、れ、六〇、と、ぐ、らい、に、な、ま、ま、

は、の、ほ、れ、は、れ、ま、す、す、め、る、な、り、は、や、く

す、す、め、る、と、き、わ、て、ん、せん、あ、ら、く、な、り、ま、づ、

か、に、す、す、め、る、と、き、わ、み、つ、に、な、る、な、り、

○送井上學士之獨逸國

楠陰杉浦正臣

君不見昔時遣唐留學士。文章徒誇彫蟲技。又不見入唐留錫

僧。教律空談因果理。當時中外事紛紜。愚者惑佛智耽文。遂

自著成題其後

一器具ハ成丈ケ後廻シニスヘン器具ノ整フヲ待テテ割烹

君不見昔時遣唐留學士。文章徒誇彫蟲技。又不見入唐留錫

僧。教律空談因果理。當時中外事紛紜。愚者惑佛智耽文。遂

使皇州英靈氣。不知不識化妖氛。貧狼咆虎投其隙。智俱使令

愚供役。小人道長豈多時。氣運終見謙受益。飛龍在天奎星新。

痒序連薨率土濱。文質彬彬君子國。化育英才氣如春。維吾

巽軒并文學。意氣由來小笑嶽。一朝奉命向異邦。心期他年報

榮擢。君才豈難監昔時。舍短取長本優爲。獨逸之俗勇且智。

調鼎鹽梅何所施。如君嚼腴去其粕。歸遺傳學振本鐸。不比買

櫝而還珠。枉把方柄施圓鑿。既往得喪不可緩。將來利弊須細

論。顛倒主客何爲者。漫從其流不窮源。從今懷古可大息。後

之觀今何所得。我望學士能審彼我情。勿使君子國化小人國。

偶成似某生

青崖國分覈

臆想亡真萬國同笑他。載籍說鴻濛介墟應是前人跡。石窟猶看

古代風鏃用楮牙。尤銳利皿成土製。欠精工欲知上世民相食。嚼

嚼痕存髓骨中

讀大森介墟編

穴居野處事空傳。寧料遺蹤在眼前。石棍歷燒痕迹黑。泥孟畫線

彩文鮮東西開闢元同一。今古滄桑幾變遷也。識啓蒙功不淺人

問爭誦介墟編

白著成題其後

貝殼層層雪散鋪。故墟認得野田隅。土泥盤碟形容朴。角骨錐鋸
製造粗世好鬪爭。蹤可討人相饒食。事難認豈思千百餘年後。眼
看鴻荒混沌圖。

○無題

蠻觸紛紛幾鬪爭。百年苦樂笑斯生。文章未必無窮業。竹帛徒圖
不朽名。或恐青天終下墜。曾聞大地欲西傾。茫茫身後真難識。且
對春風醉玉觥。

天台道士評連篇共可玩。味幽憤之士誦之大有所得矣

學會記事

○東京數學會社 一月第二土曜日即十二日例會ヲ東京大
學ニ開キ工學協會ヨリ依頼サレタル譯語ヲ議定ス出席會
員十三名菊池大麓氏議長ノ撰ニ當ル

二月第一土曜日即二日例會ヲ東京大學ニ開ク出席會員十
五名菊池大麓氏議長ノ撰ニ當ル工學協會ヨリ依頼サレタ
ル譯語ヲ議定スルヲ二十二語ナリ即本會ヲ以テ完了ス尤
モ未タ全ク決セサル譯語五個ハ次會ニ於テ之ヲ決セン
ヲ期ス

○東京化學會記事 明治十七年一月十九日午後二時ヨリ

例場ニ會ス、萬年會ヨリ同會報告第五輯第十卷ヲ、會員高

松豐吉氏ヨリ客年十月刊行ノ「ゼ、ヂョルナル、オフ、ゼ、ケ

ミカル、ソサイエテ」ヲ本會へ寄贈セラレタリ

高山甚太郎氏東京用水分析ノ報文ヲ讀ム

此日出席會員十六名ナリ

二月二日午後一時ヨリ例場ニ於テ臨時會ヲ開キ改正規則

草案ヲ議ス、出席正員十七名ナリ

雜報

○日本毒草 近頃刊行の東京大學理科會粹第十卷の同醫學部の化學及び製藥學教師ゼ、エフ、アイクマン氏の著述に關するものにして日本毒草の化學研究と題せり氏の我邦へ來遊このかゝ勉めて毒草のことに意を用ひられ既に夥多の發見あり蓋し草木中存在せる毒分の極めて少量あると以て之と他の成分より分出して純粹なるものと得るの甚だ六かしき業あり今アイクマン氏の此業と遂げられ

と希望するあり今アイクマン氏の研究されたる草木と載それの即ち左の如し

(一) *Andromeda Japonica* Thunb. 馬醉木 (アセビ)

(二) *Scopolia Japonica* Max. 莨菪 (ハシリドコロ)

(三) *Macleaya Cordata* R. Br. 博落迴 (チヤムパギク)

(四) *Chelidonium Majus* L. 白屈菜 (クサノオウ)

(五) *Nandina Domestica* Thunb. 南天 (ナンテン)

(六) *Orixa Japonica* Thunb. 常山 (コクサギ)

(七) *Skimmia Japonica* Thunb. 茵芋 (ミヤマシキミ)

○露國園藝會出品 本年五月露京セントピートルスボルクに於て開設せる萬國園藝博覽會へ東京大學植物園にて

調整しふる生植物標品四十餘種と文部省より出品せる由あり此植物の大概常綠木にして珍奇の變種多く必だ日本

園藝の名譽と歐洲に得るあるべし又農商務省にての一層多數の植物と同會に出品し委員とも兩名派遣せらるる由

あり

○編者白 加藤君の人爲淘汰の疑問に答議せらるる諸君

の來四月中旬と期して其賞稿と置郵せられんと乞ふ

○教員有餘 普國にての近來教員の數過分にして幾と之

と處するの法なきに至れり殊に數學及び新語學専門の人

夥多にして中學の數少なきに非んと雖教員の位置の盡く

充滿せると以て最上の免狀と有し見習教員として立派な

る力量と現はる者と雖正教員の位置に登ることと得とし

て徒らに糊口に苦むと云ふ (獨逸繪入新聞)